



Benesse お茶の水ゼミナール  
海外大併願コース



海外・国内トップ大進学情報誌

# Route Book 2021



**「世界中から進路を選ぶ」をスタンダードに。**

日本の高校から11年連続でハーバード大・イエール大へ合格者を輩出する日本で唯一の進学塾「Route H」グループが

『出願対策』×『英語テスト対策』で日本の中高生のグローバル進路実現をサポートします。

# 「世界中から進路を選ぶ」をスタンダードに。

高校卒業後に日本国内の大学に加え、海外の大学を当たり前を目指す時代になりました。

「世界中から進路を選ぶ」という姿勢が広がる一方で、合格へのノウハウが一般化されるには至っていません。

そのノウハウは、毎年多くの海外トップ大学・国内グローバル系大学へ合格者を輩出している「Route H」グループへ蓄積されています。その確かさは、ハーバード・イェール 11 年連続合格者輩出という日本で唯一の実績が証明しています。グローバルな進路に挑む際の道標としてこの冊子をぜひお役立てください。

進学先もグローバルな視点から選ぶ時代。

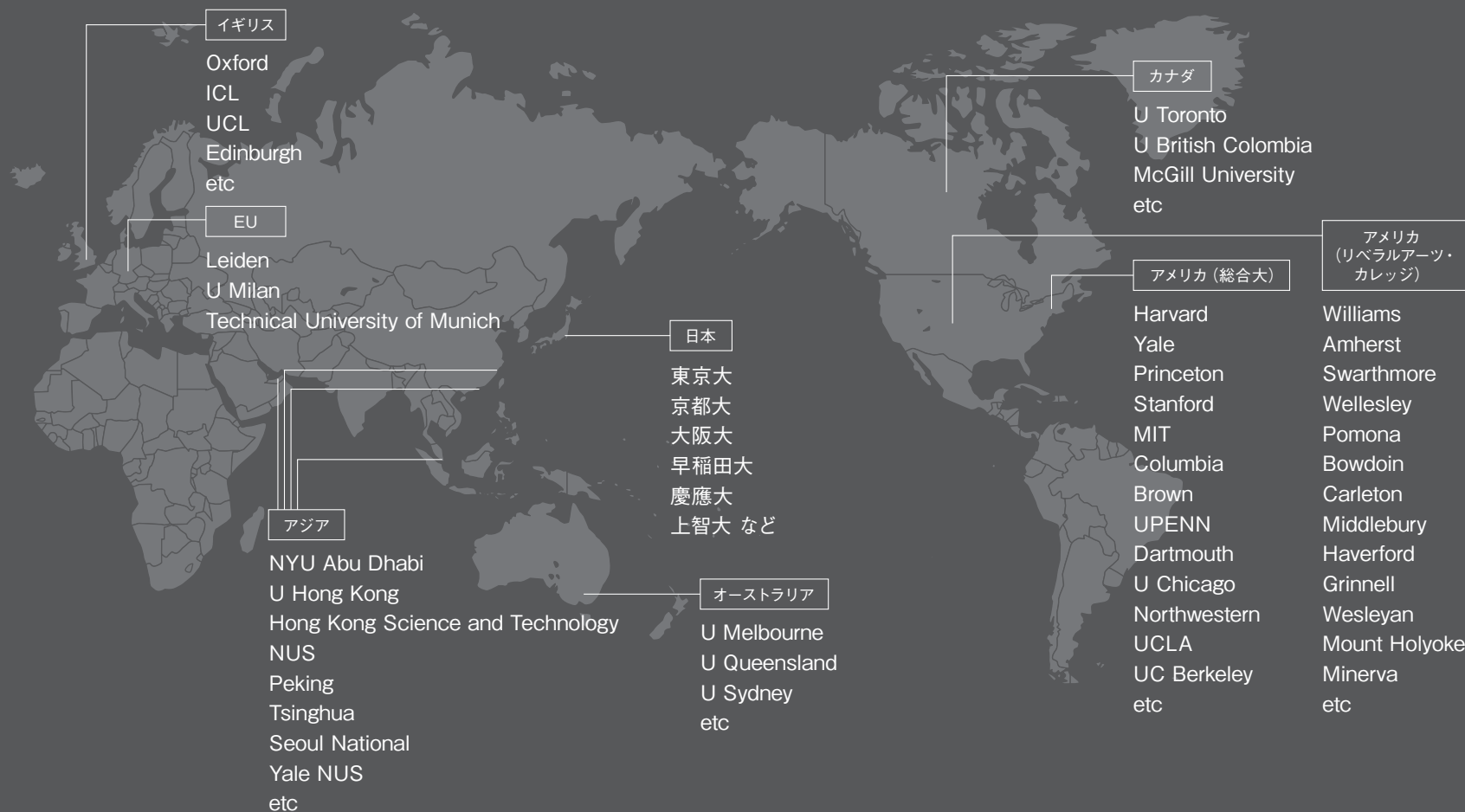
あなたの未来を拓く挑戦を「Route H」グループが応援します。

## 「Route H」グループ講師一同



# 日本国内のトップ大のみならず世界のトップ大に広がる進学先

「世界中から進路を選ぶをスタンダードに」を体現する卒業生たち。その進路はアイビーリーグやリベラルアーツカレッジなど米国の名門大学をはじめ、イギリス、カナダ、オーストラリア、日本など世界各地へと広がっています。



# Elite Research Universities

## 世界の名門大学

世界を代表する名門大学の多くは世界ランキングでも常に上位に名を連ね、入学志願者数は年々増える傾向にある。国籍を問わずに優秀な頭脳を選りすぐり学内の活性化に努める開かれた姿勢が世界中の高校生を惹きつけているからだ。合格率はいずれも低く超難関。その難度もますます高まりつつあるが、必要な対策を行えば日本からの進学も決して夢ではない。

### Harvard University ハーバード大学

世界のトップを独走する私学の雄である。全米最古の大学で世界ランクで常に最上位にランクされる私立大学。留学生の入学基準は国内学生と同じ。Ivy Leagueに所属。



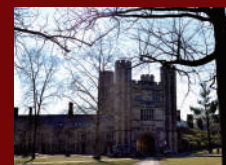
### Yale University イェール大学

ハーバード、プリンストンと並ぶ不動の名門私立大学。全米で3番目に古い大学である。学生の出身国は70か国以上。Ivy League、IARUIに所属。



### University of Princeton プリンストン大学

教育・研究の両立で名高い難関校。世界ランク上位の常連校。少数精鋭主義で知られ、ノーベル賞受賞者を多数算出。



### University of Stanford スタンフォード大学

産業界を牽引する西海岸の最高峰。全米BIG 4の一角をなす名門。理系・文系を問わず世界的な名声を誇る。



所在地	MA USA	CT USA	NJ USA	CA USA
設立	1636年	1701年	1746年	1891年
公立/私立	Private	Private	Private	Private
留学生比率	26%	20%	23%	23%
合格率	4.63%	6.08%	—	4.34%
早期出願	Early Action (Restrictive)	Early Action (Restrictive)	—	Early Action (Restrictive)
IBスコア目安	IB 38-43	IB 38-43	IB 38-43	IB 38-43
英語スコア目安	SAT 1460-1600 / ACT 32-36 TOEFL 提出可	SAT 1420-1600 / ACT 32-36 TOEFL 100	SAT 1440-1570 / ACT32-35 TOEFL必須	SAT 1420-1570 / ACT32-35 TOEFL推奨

※留学生比率の出典は、World University Rankings

※IBスコア英語スコアの数値は目安です。詳細は必ず大学のオフィシャルページでご確認ください。SAT Subject Testが必要な大学や学部もあります。

※合格率、早期出願の出典は、College Board



University of Columbia  
コロンビア大学

世界の頭脳が集まる都市型キャンパス。150か国から留学生が学ぶ。出身・所属のノーベル賞受賞者は過去70人以上を誇る。



The University of Pennsylvania  
ペンシルバニア大学

文教都市に建つ国際色豊かな名門。世界的に知られる世界最古の医学部を持ち、ウォートンビジネススクールも有名。



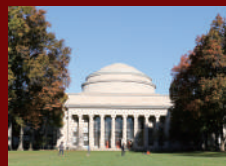
University of Brown  
ブラウン大学

教育力に定評ある東海岸の優良校。大学院進学率が郡を抜いて高く、すべての教員が学部課程と大学院の指導を兼任する。



Massachusetts Institute of Technology  
マサチューセッツ工科大学

世界に冠たる理工系エリート校。自然科学と工学系で名実ともに世界のトップ。ハーバード大学との単位互換制度あり。



University of Oxford  
オックスフォード大学

世界ランキング3年連続1位。11世紀末に設立された英語圏最古の大学である。イギリス伝統のカレッジ制を導入している公立大学。Russell Groupに所属。



University of Cambridge  
ケンブリッジ大学

世界屈指の名門公立大学の一つ。英語圏では、2番目に古い大学である。オックスフォードと同じく、イギリス伝統のカレッジ制を導入している。Russell Groupに所属。



NY USA	PA USA	RI USA	MA USA	Oxford UK	Cambridge UK
1754年	1740年	1764年	1861年	1096年	1209年
Private	Private	Private	Private	Public	Public
37%	21%	20%	34%	41%	38%
5.27%	7.66%	4.29%	6.69%	—	—
Early Decision	Early Decision	Early Decision	Early Action (Not-restrictive)	—	—
IB 38-43	IB 38-43	IB 38-43	IB 38-43	IB 38-43	IB 38-43
SAT 1450-1560 / ACT33-35 TOEFL100	SAT 1440-1560 / ACT32-35 TOEFL100	SAT 1420-1550 / ACT32-35 TOEFL100	SAT 1500-1570 / ACT34-36 TOEFL90(推奨は100)	SAT 1470-1600 / ACT32-36 TOEFL100-110	SAT 1470-1600/ACT32-36 TOEFL100-110

※留学生比率の出典は、World University Rankings

※数値は目安です。詳細は必ず大学のオフィシャルページでご確認ください。SAT Subject Testが必要な大学や学部もあります。

# Times Higher Education World University Rankings 2021

## 世界大学ランキング

世界には、2万を超える大学が存在する。名門校の多くは世界でもトップに位置している。タイムズ社の世界大学ランキングを見れば英語圏の大学の評価がいかに高いかがわかる。その圧倒的な強さを支えているのは優れた教育研究レベルはもとよりそれを可能にする強大な資金力と活力を生み出すフレキシブルな制度、そして世界中から集まる有能な学生たちだ。

順位	大学名		国名
1	オックスフォード大学	University of Oxford	イギリス
2	スタンフォード大学	Stanford University	アメリカ
3	ハーバード大学	Harvard University	アメリカ
4	カリフォルニア工科大学	California Institute of Technology	アメリカ
5	マサチューセッツ工科大学	Massachusetts Institute of Technology	アメリカ
6	ケンブリッジ大学	University of Cambridge	イギリス
7	カリフォルニア大学バークレー校	University of California, Berkeley	アメリカ
8	イェール大学	Yale University	アメリカ
9	プリンストン大学	Princeton University	アメリカ
10	シカゴ大学	University of Chicago	アメリカ
11	インペリアル・カレッジ・ロンドン	Imperial College London	イギリス
12	ジョンズ・ホプキンス大学	Johns Hopkins University	アメリカ
13	ペンシルバニア大学	University of Pennsylvania	アメリカ
14	チューリッヒ工科大学	ETH Zurich	スイス
15	カリフォルニア大学ロサンゼルス校	University of California, Los Angeles	アメリカ
16	ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン	UCL	イギリス
17	コロンビア大学	Columbia University	アメリカ
18	トロント大学	University of Toronto	カナダ
19	コーネル大学	Cornell University	アメリカ
20	デューク大学	Duke University	アメリカ
21	清華大学	Tsinghua University	中国
22	ミシガン大学アーバー校	University of Michigan-Ann Arbor	アメリカ
23	北京大学	Peking University	中国
24	ノースウェスタン大学	Northwestern University	アメリカ
25	シンガポール国立大学	National University of Singapore	シンガポール

# なぜ今、日本の中高生は海外トップ大を目指すのか？

世界中から集まる学友とともにディスカッションなど、アウトプットの多い授業を受けることによって身につく知識・スキル、寮生活を通じて培われる人間力や世界に広がる仲間のネットワークに魅力を感じる中高生は多い。また、文理にまたがり副専攻やダブル専攻をすることも可能なため、自分の興味のある分野を追求できることも魅力となっている。

## 海外トップ大の魅力

### ダイバーシティが生む活力

文化や世代の違いを超えて世界中から集まる学生の多様性 (diversity) が、大学に活力をもたらしている。入学審査で活動実績が重視されるのもそのため。多才な友人たちと切磋琢磨し、世界中にネットワークが広がることで、さらに「大学力」が高まることになる。

### 多様でフレキシブルな教育力

アメリカの大学では、1、2年次の教養課程で幅広く学んでから専攻を絞るため、カリキュラムは柔軟性に富む。他の国の多くは、選考を決め入学をし1年時から研究ができる大学が多い。世界の大学では、副専攻やダブル専攻で同時に2つの分野を学んだり、海外留学や他大学での聴講、単位互換なども盛んである。

### 学費援助を支える資金力

世界の大学の多くでは、優秀な学生を多く集めるため奨学金 [Scholarship] を留学生に用意している。授業料の一部を補助してくれる大学や生活費までカバーしてくれる大学など多岐にわたる。出願時には、「Scholarship」にぜひ挑戦してほしい。

理系・文系を問わず自らの  
学びたい分野を追求できる  
副専攻・ダブル専攻の一例

Computer  
Science

Philosophy

Chemistry

History of  
Arts

Statistics

Economics

### 豊富な選択肢とリソース

学業面のプログラムの豊富さに加え、課外活動やフィールドワークなどの選択肢が豊富でかつレベルが高いものも多い。レベルの高い教授陣や最先端な研究施設などトップ大の豊富なリソースを有効活用することをお勧めする。選択肢が多いため、個々のニーズに合わせた最適な学業や活動を選択することが可能である。

### 寮生活で培われる人間力

多くの新入生が寮生活では、他国の学生との交流の中でそれぞれの価値観を知り、多様性や異文化理解を深めることができる。また、高度なコミュニケーション能力を身につけることもできるのも魅力だ。様々な国の学生と交流を深めることによって各国の研究や就職情報なども得ることができる。

### ディスカッションで切磋琢磨

規模の大きい大学では、教授の「講義」以外に、助手 (TA) が担当する少人数授業 (チュートリアルやセクションなどと呼ばれる) があり、講義の受講を前提に、ディスカッションなどで仲間と切磋琢磨しながら科目に対する理解を深める仕組みが徹底している。

# US Liberal Arts Colleges

## US Liberal Arts大学

近年、リベラルアーツ教育への関心が高まっている。その背景には、高校在学中に学問の専攻を確実に決めて進学することへの不安感や大学入学後に興味関心が変わることへのリスクを感じている学生が増加していることがある。リベラルアーツ大学は、総合大学同様、自分自身の興味のある学問を探すために様々な分野の学問を大学1、2年で選択して学ぶことができる。そして興味を持った学問を3、4年で専門性を深めていくことが可能である。また、少人数クラスの中でディスカッションを中心とした授業を展開することも人気の理由だ。

### リベラルアーツ・カレッジ・トップ5大学(ランキングは変わる場合があります)

#### Williams College ウィリアムズ大学(マサチューセッツ州)

リベラルアーツ・カレッジの最高峰。  
オックスフォード型のチュートリアル制度を採用し、  
教授との1対1の議論で学生を徹底的に鍛え上げる。

#### Amherst College アマースト大学(マサチューセッツ州)

ウィリアムズ大学と長年のライバル大学。  
5大学コンソーシアムを組んでおり、学生はコンソーシアム内で  
5,000以上のクラスから履修クラスを選択できる。

#### Swarthmore College スワースモア大学(ペンシルバニア州)

アイビーリーグ大学と同等の質やレベルを有する  
名門大学群「リトル・アイビー」の1大学。  
卒業生が博士号を取得する割合は理工系大学を除くと全米1位。

#### Wellesley College ウェルズリー大学(マサチューセッツ州)

アメリカ初の女性国務長官であるマデレーン・オルブライトや  
ヒラリー・クリントンを輩出した名門女子大学。  
MITとの単位互換プログラムがあり、MITの授業も受けられる。

#### Pomona College ポモナ大学(カリフォルニア州)

西海岸では数少ないリベラルアーツ・カレッジとして絶大な人気を誇る名門。  
学生一人あたりの資金力ではリベラルアーツ・カレッジでトップ。  
隣接する4つのリベラルアーツ大との連合も強み。



# Elite Liberal Arts Colleges

## 注目のリベラルアーツ校

少数精鋭主義で幅広く学問を修め、文系・理系にまたがる真の教養を磨くりベラルアーツ・カレッジの名門私大。大学院へ進学する卒業生も非常に多い。

### 少数精鋭主義で実力を磨く

学生数3000人未満の大学が多く、教員1人あたりの学生数はわずか7～11人。教授の目がよく行き届き、学生一人ひとりの力を十分に伸ばすことができる。

### 「個」を高めて伸ばす

少人数のため、教室や課外活動で自然とリーダーシップが身につく。アドバイザー教員がマンツーマンで学習面・生活面を支え、潜在能力を引き出してくれる。

### 指導に情熱を注ぐ教授陣

総合大学以上に教育熱心な教授が多く、必ず教授自身が授業を受け持つ。個々の学生に対してきめ細やかに指導し、夜遅くまで学生たちと議論を楽しむことも。

### 他大学の授業も受講できる

小規模で、講座数がやや限られる点を補うため、近隣の他大学と連携（コンソーシアムを形成）することで多種多様な科目を受講しやすくなる制度をとる大学も散見される。

## 全米リベラルアーツ・カレッジ TOP 20

順位	大学名	所在地
1	Williams College	マサチューセッツ州
2	Amherst College	マサチューセッツ州
3	Swarthmore College	ペンシルバニア州
4	Pomona College	カリフォルニア州
	Wellesley College	マサチューセッツ州
6	Bowdoin College	メイン州
	Claremont McKenna College	カリフォルニア州
	United States Naval Academy	メリーランド州
9	Carleton College	ミネソタ州
	Hamilton College	ニューヨーク州
	Middlebury College	バーモント州
	Washington and Lee University	バージニア州
13	Grinnell College	アイオワ州
	Vassar College	ニューヨーク州
15	Colby College	メイン州
	Davidson College	ノースカロライナ州
	Haverford College	ペンシルバニア州
	Smith College	マサチューセッツ州
	United States Military Academy	ニューヨーク州
20	Colgate University	ニューヨーク州
	Wesleyan University	コネチカット州

出典：2021 Best National Liberal Arts Colleges | US News Rankings

### グレル・バンクロフト基金～リベラルアーツ・カレッジ専門の奨学金～

リベラルアーツ・カレッジへの進学を希望する日本の高校卒業生を対象とした、返済義務のない奨学金。帰国者の就職も支援しており、各界へ優秀な人材を輩出している。

お問い合わせ  
<http://www.grew-bancroft.or.jp>  
office@grew-bancroft.or.jp

### 支給内容(2020年度募集要項より/2021年夏出発)

- 米国のリベラルアーツ・カレッジに進学する者に対し、毎年5万米ドルを4年間支給。(2名)
- 米国の4年制大学(リベラルアーツ・カレッジ以外への進学も可)に進学する者に対し、毎年5万米ドルを4年間支給。(1名)

その他、以下の大学へ授業料全額または一部免除に基金から推薦。  
・授業料全額免除 DePauw University/Grinnell College/Union College  
・授業料一部免除 Knox College/Lake Forest College/Earham College/Mount Holyoke College

※最新の情報はホームページ等でご確認ください。

## Universities in the US 総合力を養うアメリカの大学



アメリカの大学受験は、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。アメリカの大学の大部分は、Common ApplicationやCoalition Applicationと呼ばれる共通願書システムでオンライン上から必要な書類や質問を記入して出願する。州ごとに願書システムを持つ大学もある。

### 大学の特徴

- 日本と同じ4年制大学。
- 学部別の入試は無く入学後に専攻を決める。
- 2年制のコミュニティカレッジからの編入もポピュラー。
- 一般教養だけを学ぶ「リベラルアーツカレッジ」という大学も存在するほど、一般教養が重視され幅広い知識を総合的に身につける教育が徹底されている。
- 最初の2年は一般教養を学ぶ大学が多くを占めている。
- 研究やフィールドワークなどの機会が多い。
- 在学途中で専攻変更、副専攻、ダブル専攻、早期卒業、編入などが可能でとてもフレキシブル。

### 大学例

#### IVY Leagueが有名

- California Institute of Technology
- Harvard University
- Massachusetts Institute of Technology
- Princeton University
- Stanford University
- University of Chicago
- Yale University など

### 大学数

- 約4,500校

#### IVY Leagueとは

アメリカ東海岸にある名門私立8大学の通称。Brown University、Columbia University、Cornell University、Dartmouth College、Harvard University、Princeton University、University of Pennsylvania、Yale Universityで構成される。アメリカのみならず世界をリードする人材が集う大学である。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

## Universities in Canada 質の高いカナダの大学



カナダの大学受験は、アメリカなどと同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。カナダの大学は、大学のホームページから個人登録をし、オンラインで必要な書類や質問を記入して出願する。

### 大学の特徴

- 日本と同じ4年制大学。
- 教育の質が高く、ハイレベルな学力・英語力が求められる入試難易度が高い。
- 恵まれた自然環境で生活のしやすさや治安の良さから多くの留学生から人気。
- 大学在学中及び大学卒業後、最大3年間カナダで働く事ができる。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

### 大学例

#### The U15 Group of Canadian Research Universitiesが有名

- McGill University
- McMaster University
- University of British Columbia
- University of Montreal
- University of Toronto など

### 大学数

- 約90校

#### U15 Group of Canadian Research Universitiesとは

カナダの15研究大学の通称。University of Alberta、University of British Columbia、University of Calgary、Dalhousie University、Université Laval、University of Manitoba、McGill University、McMaster University、Université de Montréal、University of Ottawa、Queen's University、University of Saskatchewan、University of Toronto、University of Waterloo、University of Western Ontarioで構成される。研究費等が充実しカナダ国内最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

## Universities in UK 専門性を追求するイギリスの大学



イギリスの大学受験は、アメリカ同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。この他、A Levelを指定日に受験する方法もある。イギリスの大学は、UCASと呼ばれる共通願書システムでオンライン上から必要な書類や質問を記入して出願する。

### 大学の特徴

- 大学は3年制(学部によって3~6年)。
- 日本からの留学生は大学入学前に約1年間、専門知識の基礎を学んで、計4年で卒業。(インターナショナルバカロレアなどの学生は、成績によるが直接大学に入学が可能)
- 一般教養課程がなく、専門科目を重点的に学ぶ。
- 即戦力となる専門人材の育成に重点を置いた教育が特徴。
- 実学を重視した大学と研究を重視した大学がある。
- 国内の大学がほぼ国立大学で歴史のある大学が多い。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

### 大学例

#### Russell Groupが有名

- Imperial College London
- London School of Economics and Political Science
- University of Oxford
- University of Cambridge
- UCL など

### 大学数

- 約120校

## Universities in Australia 専門人材を育成するオーストラリアの大学



オーストラリアの大学受験は、アメリカなどと同様、日本の大学入学共通テストに代表される日付指定の筆記試験ではなく、事前に準備が可能な書類審査で行われる。提出した書類により多面的総合的に評価される。オーストラリアの大学は、大学のホームページから個人登録をし、オンラインで必要な書類や質問を記入して出願する。紙で提出する場合には、日本のエージェントが書類提出窓口になっている大学もある。

### 大学の特徴

- 大学は3年制(学部によって3~6年)。
- 日本からの留学生は大学入学前に約1年間、専門知識の基礎を学んで計4年で卒業。(インターナショナルバカロレアなどの学生は、成績によるが直接大学に入学が可能)
- 専門人材の育成に重点を置いた教育が特徴。
- いわゆる短大という大学は存在しない。
- 公立総合専門学校(TAFE・College・Polytechnic)からの単位互換で大学編入が可能。
- 大学卒業後、2年間働くVISAを取得できる。
- ダブル専攻が可能な大学も多い。

### 大学例

#### Group of 8が有名

- Australian National University
- Monash University
- University of Melbourne
- University of New South Wales
- University of Queensland
- University of Sydney など

### 大学数

- 43校

### Russell Groupとは

イギリスの24研究大学の通称。University of Birmingham, University of Bristol, University of Cambridge, Cardiff University, Durham University, University of Edinburgh, University of Exeter, University of Glasgow, Imperial College London, King's College London, University of Leeds, University of Liverpool, London School of Economics and Political Science, University of Manchester, Newcastle University, University of Nottingham, University of Oxford, Queen Mary University of London, Queen's University Belfast, University of Sheffield, University of Southampton, University College London, University of Warwick, University of Yorkで構成される。研究費や助成金等が充実しイギリス国内最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

### Group of 8とは

オーストラリアの主要8研究大学の通称。Australian National University, University of Adelaide, University of Melbourne, Monash University, University of New South Wales, University of Queensland, University of Sydney, The University of Western Australiaで構成される。研究費等が充実しオーストラリア国内で最高峰の大学として知られる。

※上記の情報は変更になる可能性があります。

# Prepare for World Top Universities

## 世界の大学は、 多面的総合的評価

世界トップ大の多面的総合的評価への準備は計画的に。学校において良い成績を維持することは当然の事ながら、それに加えて課外活動やTOEFL®/SAT®の勉強、また、エッセイ執筆や推薦状の依頼、財政証明書の準備など、計画を立てて進める必要がある。特に、TOEFL®/SAT®のスコアは出願資格となる上に、スコア取得まで相当の時間がかかる。また、高3の夏休み以降は、国内の受験対策も本格化するので対策を早めに始めたい。



### 海外トップ大受験スケジュール一例 (中学～高校3年)



### 海外トップ大受験スケジュール一例 (高校3年)



## 入学審査の重点ポイント

全世界から優秀な頭脳を一堂に集め、その多様な力で学内を活性化することが名門大学の基本スタンスである。そのため学力だけで合否を決めることはない。出願時のエッセイや面接をもとに学業に加えて課外活動でも実績を上げ、強烈な熱意と高いモチベーション、創造力に秀でたタフな人物を見極める。それをいかにして審査官に訴えるか、まずは自分の強みと課題を整理してみよう。



### Balance

#### 「学力+人間力」の総合評価

学業成績、SATやTOEFLなどのテストスコア、願書（特に課外活動や受賞歴など）、エッセイ、面接でのコメントなどが総合的に判断され、入学するに相応しい人物が特定される。トップクラスの大学では、SATが満点でも不合格となるケースもある。

### Passion

#### 入学へのあくなき「熱意」

この大学に入りたい、という強い熱意を示すこと。事前に大学を訪問したり、全科目の講義要項に目を通したりして、明確な動機と必然性をもってエッセイや面接で志望理由を語りたい。自分に合った大学かどうか見きわめるためにも、ぜひ大学訪問を。

### Creativity

#### きわだつ「個性」「独創力」

オールラウンドに秀でるだけでは決め手に欠ける。何らかの全国大会や世界大会での実績など、特別に目を引く強みがほしい。入学審査官は1万通、2万通もの願書に目を通す。しかも、出願者はみな精鋭ぞろい。凡庸な人物では選ばれる理由がない。

### Contribution

#### 期待感を高める「貢献度」

自分の目標に向かって走るだけでは不十分。その大学にフィットした、大学にとって貢献度の高い人物になりえるかどうか大事なポイント。「入学後、どんな貢献ができるか」といった質問が、願書やエッセイの課題に織り込まれているのもそのためだ。

### Leadership

#### 社会を変えていく「原動力」

社会を動かす人物こそが好まれる。学業や課外活動での優れた実績に加え、それが周囲にどれだけ認められ、問題解決に役立ったか、その影響力の強さが評価される。リーダーの地位だけでなく、何をすることが大事だ。

#### トップ大が求める人物像

ハーバード大のサイトには「リーダーシップ」「コミュニティ貢献」などに加え「学生同士で互いに、または教授をも教育する人——周りの人をインスパイアする人」スタンフォード大のサイトには「学業優秀」「知的バイタリティ」「好奇心と熱意」などの言葉が散見される。参考にしたい。



# Application Requirements

## 出願に必要な書類

必要な書類は、国や大学ごとに異なることがあるが主に願書、成績証明書、エッセイ、推薦状、テストスコアがある。これらの中には、自分自身で用意する書類、学校の先生に用意してもらう書類、TOEFL®やSAT®の実施団体から提出してもらう書類などがある。また、保護者が用意する財政能力証明書が必要な場合がある。

<p>願書 Application Form</p>	<p>オンライン出願が主流。個人情報を入力をする。世界のトップ大学の多くが志望する大学・専攻に関することや、高校時代の学業成績、受賞歴、就労歴、英語テストスコア、課外活動歴などの記入の指示などがある。</p>
<p>成績証明書 Transcripts</p>	<p>高校に依頼して英文の成績証明書を発行してもらう。進路指導教員や担任教員にお願いしよう。学校からの直送を求める大学も多い。途中で転校している場合は、前に在籍した学校の書類も必要。</p>
<p>エッセイ Essay</p>	<p>志望動機や留学への熱意、将来設計などを通じて自分をアピールする。エッセイでは国や大学ごとに文字制限などがあり要件に合わせたエッセイを書く必要がある。その大学について十分にリサーチしたうえで、志望動機を明確にして作成したい。</p>
<p>推薦状 Recommendations</p>	<p>出願者の資質や能力、人間的魅力について客観的に伝える。高校の担任や進路指導の教員、主要教科の教員などに依頼できるよう日頃からのコミュニケーションを大切にしたい。大学によってはさらに指定があるので要注意。国内大向けの推薦状以上の具体性が求められるので、自分のことをよく把握している先生に作成してもらうのがポイント。さらに、特筆すべき点があれば、高校以外のしかるべき人物に外部推薦状を作成してもらうのもよい。</p>
<p>テストスコア Test Scores</p>	<p>大学ごとに指定のテストを受験。そのスコアを実施団体から志望校に送ってもらう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●SATやACTでは、スコア・チョイス(受験生側で提出するスコアを選べる制度)が導入されているが、過去に受験したすべてのスコアの提出を求め、各セクションの最高点で評価する大学が多い。</li> <li>●通常出願の場合、1月受験のスコアも提出可能だが、できれば年内の受験で高得点を取り、他の出願書類とともに提出しておきたい。</li> <li>●TOEFLでは、iBT(Internet-based Test)で最低100点を要求する大学が散見されるので、早めにこれを超えるよう対策を立てたい。</li> </ul>
<p>高校教員による学生評価 SR/CR/TE/MR</p>	<p>進路・担任や各教科教員がオンラインで提出する評価フォームのこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●SR(School Report)/CR(Counselor Recommendation):進路指導教員または担任が作成し、成績証明書、学校案内、推薦状も添付する。</li> <li>●TE(Teacher Evaluation):生徒に依頼された教員(2名)がそれぞれ作成するフォーム。推薦状もそれぞれ添付要。</li> <li>●MR(Mid Year Report):出願後の学業成績を反映した中間報告書。</li> </ul> <p>※上記のほか、Final Reportなども必要に応じ提出要。</p>
<p>学校紹介 School Profile</p>	<p>高校(SR作成の先生)に、英文の学校紹介の作成を依頼する。単に日本語の高校案内を英訳するのではなく、基本情報に加え、難関大への合格実績など、学校のPRとなるような内容を追記してもらうとよい。</p>

## テストスコア、 受験書類の目安

世界の大学を受験するには、様々な書類の提出を求められることが多い。世界トップの大学を目指す場合には全ての書類で良い評価を得る必要がある。自分の力で努力ができる課外活動、受賞歴、成績、エッセイ、テストスコアは計画を立てしっかりと準備をしよう。特に学校の成績は重要であるため、日々の学校の学習や中間や期末テストは、しっかりと高得点を取ってほしい。

英語テストの詳細は  
オフィシャルページで確認しよう。

TOEFL

<https://www.ets.org/toefl>

IELTS

<https://www.ielts.org>

SAT

<https://collegereadiness.collegeboard.org/sat>

ACT

<http://www.act.org>

	オンライン願書		成績証明書		提出資料		テストスコア		
	課外活動	受賞歴	GPA	IB Points	エッセイ/ 志望理由	推薦状	TOEFL iBT	IELTS	SAT/ ACT
Top Prestigious University	◎	◎	4.5～5.0	43+	◎	◎	110+	8.0+	90%+
TOP University	◎	◎	4.0～4.5	30+	◎	◎	100+	6.5～7.0	80%+
University	○	○	3.5～4.0	25+	○	○	90+	6.0～6.5	—
Foundation Course Community College etc	△	△	3.0～4.0	—	△	△	60-80+	5.0～6.0	—

※上記スコアは、あくまで目安となります。海外大学は、提出書類の総合評価になります。

※◎とても重視する ○重視する △あまり重視しない

# Honors and Extracurricular Activities

## 課外活動を アピールしよう

共通願書などには、中学3年生から高校3年生の出願時点までの課外活動に関する受賞歴を記載する欄がある。これをすべて埋めなければ、トップスクールに合格することはできない、ということでは決してない。そうしたなかで、少しでも自分をアピールするのに大切なことは、活動の数や量もさることながら「質」である。質の高い活動歴がたくさんあればあるほど、入学審査官の目にとまりやすい。ここでは、願書に見られる課外活動の代表的なタイプと例をまとめているので参考にしてほしい。特に活動例はここに挙げた以外にも、中高生が参加できるものが多々あるので調べてみよう。

### 課外活動の主なタイプと活動例

タイプ／共通願書の英語表記	例
高校の組織活動(部活動は除く)／School Spirit	生徒会、委員会、クラスでの活動など。 ※校内の運動部やクラブでの活動は、次のAthleticsに含む。
運動部:(準)レギュラー／Athletics: JV/Varsity 運動クラブ／Athletics: Club	運動部や運動クラブでの活動。 ※Varsityはレギュラー、JV (Junior Varsity) は準レギュラーの意。
アカデミック／Academic	学問レベルを競う各種オリンピックや模擬国連、エッセイコンテストなどアカデミックな大会等への出場歴。サマースクールやキャンプ等への参加も含む。 ※大会での受賞歴は、Honors(次ページ参照)の欄に書くのが一般的。
科学、数学／Science, Math	科学や数学系のキャンプやプログラムへの参加、大学等での実験活動体験など。
外国語／Foreign Language	校内でのESS活動、外国語学習歴など。
海外交流／Foreign Exchange	海外交流イベントへの参加、運営など。
ディベート、スピーチ／Debate, Speech	ディベート大会、スピーチ・コンテストへの参加など。 ※Academicの模擬国連はこちらに記載しても可。
コミュニティ活動(ボランティア)／ Community Service (Volunteer)	各種ボランティア活動(NPO等でのボランティアも可)。 ※将来の職業に関連するボランティア活動はCareer Orientedの項に記載するほうがよい。
キャリア志向／Career Oriented	インターンの経験、NPO等での活動歴など。
ジャーナリズム、出版／Journalism, Publication	出版物等の記事作成、寄稿など。
音楽: 楽器(演奏)／Music: Instrumental 音楽: 歌／Music: Vocal	楽器の習い事、演奏歴、合唱歴など。
美術／Art	美術に関する活動全般。校内イベントのパンフレット制作(デザイン等)なども可。
その他のクラブ、活動／Other Club, Activity	上記のどの分類にもあてはめにくいものはここに記入する。

★アカデミックな大会などに出場して入賞した場合は、受賞欄(Honors)にも記載できる。

★自分の活動が複数のタイプにあてはまる場合は、どれに記入したほうがよりアピールできるかを考えよう。

## アカデミックな 受賞歴もPR

共通願書などには、課外活動歴と同様に、中学3年生から高校3年生の出願時点までの間に獲得したアカデミックな受賞歴について記載する欄もある。トップスクール合格に、国際大会や全国大会での受賞が必ずしも求められるわけではないものの、そうした経歴があれば当然、自己PRの材料が増える。では、名門校への出願者は実際にどのような大会で賞を手に行っているのだろう。主なタイプと具体例を右にまとめてみた。もちろん、ここに挙げた以外にも、中高生が参加できるコンテストやプログラムはたくさんあるので調べてみよう。

## 奨学金にもチャレンジを

日本から海外の大学に出願する高校生でも応募できる奨学金が、ここ数年で増えてきている。支給額が高いこともあり「狭き門」ではあるが、挑戦しておきたい。(p.28参照)

### 受賞歴の主なタイプと受賞例

※下記大会等の名称は通称。参加資格などの詳細は各プログラムのホームページ等で確認のこと。参加資格に制限がある場合もあるので注意。

タイプ	例
各教科系のオリンピック	「数学オリンピック」「物理オリンピック」など、数学・物理・化学・生物・地学・地理の各教科でそれぞれオリンピックが開催されているほか、哲学・情報オリンピックなどもある(国内上位入賞者は世界大会に出場可)。
英語力の比重の高い大会	英語ディベート大会(全国高校生英語ディベート大会ほか) 英語スピーチコンテスト(チャーチル杯、ホノルル市長杯ほか) 英語エッセイコンテスト 模擬国連(高校模擬国連ほか) ※日本語での弁論大会、論文コンクール等での受賞なども記載可。
その他のアカデミックな大会	ビジネスコンテスト、プレゼンテーションコンテスト、複数のスキルをすべて英語で競う大会(World Scholar's Cupほか)など。
国際会議 国際交流プログラム	高校生を対象としたアカデミックな国際交流プログラムや国際会議に、国内での選考を経て、日本代表として参加した場合なども記載可。
奨学金プログラム	グルー・バンクロフト基金の奨学金(p.9参照)やTOEFL奨学金など、さまざまな機関が支給する選考を伴う奨学金プログラムのほか、高校が成績優秀者に対して支給する奨学金などがある。

★入賞ができなかった場合でも、願書の課外活動欄に記載することは可能。また、大会への参加資格を得たにもかかわらず、都合で参加できなかった場合も記載してよい。

# Application Essay for US Universities

## アメリカの大学のエッセイ

### エッセイ対策と 自己分析

エッセイは合否を分かつ重要な出願書類。過去の経験から得られた価値観を背景に、志望理由や将来の目標を意識して自分自身のドラマを熱く語る必要がある。そのためには徹底した自己分析が欠かせない。自分は何を求め、どう生きる人間なのか。その行動特性と価値基準をよく見極めてこれからの課題と対策をあぶり出してほしい。自分が将来なすべきことを実現するための道、それと志望校に求めることが結びついたとき大きな説得力が生まれるはずだ。

### Common App Essay (共通願書のエッセイ)

以下の7つから1つを選び、250~650語で書く。

- 1 Some students have a background, identity, interest, or talent so meaningful they believe their application would be incomplete without it. If this sounds like you, please share your story.
- 2 The lessons we take from obstacles we encounter can be fundamental to later success. Recount a time when you faced a challenge, setback, or failure. How did it affect you, and what did you learn from the experience?
- 3 Reflect on a time when you questioned or challenged a belief or idea. What prompted your thinking? What was the outcome?
- 4 Describe a problem you've solved or a problem you'd like to solve. It can be an intellectual challenge, a research query, an ethical dilemma — anything of personal importance, no matter the scale. Explain its significance to you and what steps you took or could be taken to identify a solution.
- 5 Discuss an accomplishment, event, or realization that sparked a period of personal growth and a new understanding of yourself or others.
- 6 Describe a topic, idea, or concept you find so engaging it makes you lose all track of time. Why does it captivate you? What or who do you turn to when you want to learn more?
- 7 Share an essay on any topic of your choice. It can be one you've already written, one that responds to a different prompt, or one of your own design.

#### ★付加情報記入欄 (オプション)

上記に加え、以前からあった付加情報 (Additional Info) 欄に加え、昨年から、コロナ禍や自然災害の自分への影響があれば説明してよい欄が新設された。

### Supplement Essay (個別大エッセイ)

#### ★ハーバード大学

Harvard 課外活動詳説、志望動機、オプション等が課される。

#### ■ 課外活動詳説 ※50~150語

Please briefly elaborate on one of your extracurricular activities or work experiences.

#### ■ 志望動機 ※50語以内/アメリカ・カナダ以外の出願者のみ。

For International Students: What specific plan do you have, if any, for using the education you hope to receive?

#### ■ Additional Essay

※以下のエッセイを追加してもよい (和訳省略)。語数指定なし。

- 1 Unusual circumstances in your life
- 2 Travel, living, or working experiences in your own or other communities
- 3 What you would want your future college roommate to know about you
- 4 An intellectual experience (course, project, book, discussion, paper, poetry, or research topic in engineering, mathematics, science or other modes of inquiry) that has meant the most to you
- 5 How you hope to use your college education
- 6 A list of books you have read during the past twelve months
- 7 The Harvard College Honor code declares that we "hold honesty as the foundation of our community." As you consider entering this community that is committed to honesty, please reflect on a time when you or someone you observed had to make a choice about whether to act with integrity and honesty.
- 8 The mission of Harvard College is to educate our students to be citizens and citizen-leaders for society. What would you do to contribute to the lives of your classmates in advancing this mission?

※上記以外に、オプションだが additional intellectual activities を記載する欄 (150語以内) もある。

#### ★イェール大学

志望動機、エッセイ、および複数の小問が課される。

#### ■ 志望動機 ※50語以内/アメリカ・カナダ以外の出願者のみ。

Why do these areas appeal to you? (100語以内)  
What is it about Yale that has led you to apply? (125語以内)

#### ■ Additional Questions ※35語以内

- 1 What inspires you?  
Yale's residential colleges regularly host conversations with guests representing a wide range of experiences and accomplishments. What person, past or present, would you invite to speak? What question would you ask?
- 2 You are teaching a Yale course. What is it called?
- 3 Most first-year Yale students live in suites of four to six people. What do you hope to add to your suitemates' experience? What do you hope they will add to yours?

#### ■ Essays ※全て250語以内。

Yale's extensive course offerings and vibrant conversations beyond the classroom encourage students to follow their developing intellectual interests wherever they lead. Tell us about your engagement with a topic or idea that excites you. Why are you drawn to it? (250語以内)

以下から1つ選ぶ。250語以内。

- a.) Reflect on your engagement with a community to which you belong. How do you feel you have contributed to this community?
- b.) Yale students, faculty, and alumni engage issues of local, national, and international importance. Discuss an issue that is significant to you and how your college experience might help you address it.
- c.) Tell us about your relationship with a role model or mentor who has been influential in your life. How has their guidance been instrumental to your growth?



## ★プリンストン大学

エッセイ、課外活動詳説、小問が課される。

### ■ Writing Questions ※250 語程度。

1.) At Princeton, we value diverse perspectives and the ability to have respectful dialogue about difficult issues. Share a time when you had a conversation with a person or a group of people about a difficult topic. What insight did you gain, and how would you incorporate that knowledge into your thinking in the future?

2.) Princeton has a longstanding commitment to service and civic engagement. Tell us how your story intersects (or will intersect) with these ideals.

### ■ 学位別エッセイ ※以下2つから1つを選ぶ。350 語程度。

**For A.B Degree Applicants or Those Who are Undecided:**  
As a research institution that also prides itself on its liberal arts curriculum, Princeton allows students to explore areas across the humanities and the arts, the natural sciences, and the social sciences. What academic areas most pique your curiosity, and how do the programs offered at Princeton suit your particular interests?

**For B.S.E Degree Applicants:**  
Please describe why you are interested in studying engineering at Princeton. Include any of your experiences in, or exposure to engineering, and how you think the programs offered at the University suit your particular interests.

### ■ 課外活動詳説 ※150 語程度。

Please briefly elaborate on one of your extracurricular activities or work experiences that was particularly meaningful to you.

### ■ More About You ※75 語以内。

- 1 What is a new skill you would like to learn in college?
- 2 What brings you joy?
- 3 What song represents the soundtrack of your life at this moment?"

## ★スタンフォード大学

エッセイ、および複数の小問が課される。

### ■ Short Questions ※50 語以内。

- 1 What is the most significant challenge that society faces today? (50 語以内)
- 2 How did you spend your last two summers? (50 語以内)
- 3 What historical moment or event do you wish you could have witnessed? (50 語以内)
- 4 Briefly elaborate on one of your extracurricular activities, a job you hold, or responsibilities you have for your family. (50 語以内)
- 5 Name one thing you are looking forward to experiencing at Stanford. (50 語以内)

### ■ Short Essays ※すべて100～250 語以内。

- 1 The Stanford community is deeply curious and driven to learn in and out of the classroom. Reflect on an idea or experience that makes you genuinely excited about learning.
- 2 Virtually all of Stanford's undergraduates live on campus. Write a note to your future roommate that reveals something about you or that will help your roommate — and us — know you better.
- 3 Tell us about something that is meaningful to you and why.

## ★MIT (マサチューセッツ工科大学)

- 1 Although you may not yet know what you want to major in, which department or program at MIT appeals to you and why? (100 語以内)
- 2 We know you lead a busy life, full of activities, many of which are required of you. Tell us about something you do simply for the pleasure of it. (100 語以内)
- 3 Describe the world you come from; for example, your family, clubs, school, community, city, or town. How has that world shaped your dreams and aspirations? (200～250 語以内)
- 4 At MIT, we bring people together to better the lives of others. MIT students work to improve their communities in different ways, from tackling the world's biggest challenges to being a good friend. Describe one way in which you have contributed to your community, whether in your family, the classroom, your neighborhood, etc. (200～250 語以内)

- 5 Tell us about the most significant challenge you've faced or something important that didn't go according to plan. How did you manage the situation? (200～250 語以内)

## ★コロンビア大学

### ■ Writing Questions

- 1 List the titles of the required readings from academic courses that you enjoyed most during secondary/high school. (150 語以内)
- 2 List the titles of the books, essays, poetry, short stories or plays you read outside of academic courses that you enjoyed most during secondary/high school. (150 語以内)
- 3 List the titles of the print or digital publications, websites, journals, podcasts or other content with which you regularly engage. (150 語以内)
- 4 List the titles of the films, concerts, shows, exhibits, lectures and other entertainments you enjoyed most during secondary/high school (in person or online). (150 語以内)
- 5 Columbia students take an active role in improving their community, whether in their residence hall, classes or throughout New York City. Their actions, small or large, work to positively impact the lives of others. Share one contribution that you have made to your family, school, friend group or another community that surrounds you. (200 語以内)
- 6 Why are you interested in attending Columbia University? (200 語以内)

※以下は志望プログラムに応じて、どちらかを選択するもの。

- 1 For applicants to Columbia College, please tell us what from your current and past experiences (either academic or personal) attracts you specifically to the areas of study that you previously noted in the application. (200 語以内)
- 2 If you are applying to The Fu Foundation School of Engineering and Applied Science, please tell us what from your current and past experiences (either academic or personal) attracts you specifically to the areas of study that you previously noted in the application. (200 語以内)

## イギリスの大学のエッセイ

イギリスの出願において Personal statement と呼ばれるエッセイは非常に重要だ。最大 47 行、1000～4000 ワード以内で志望理由、自分の学びたい学問へのパッション、スキル、経験、課外活動などをアドミッション担当官へアピールする必要がある。オンライン出願システムの UCAS では、エッセイの書き方の動画もアップされている。エッセイを書く前に動画をしっかり確認したい。

### Preparing your personal statement

準備 自己分析	ポイントを 整理	文字制限に 注意して書く	文法、スペルミス をチェック
------------	-------------	-----------------	-------------------

### Personal statement の重要なポイント

- なぜあなたは英国で勉強したいのか?
- なぜあなたは特定のコースや科目を勉強したいのか?
- 学問への情熱はあるか?
- どんなスキルや経験があるか?

### Personal statement の注意点

- 共通願書のため、選択した全大学に同じ Personal statement が送付される。そのため、大学名を言及しないように注意しよう。
- 文字制限があるため、アドミッション担当官に自分の良さをしっかり伝え、優秀な候補者であることをアピールする必要がある。

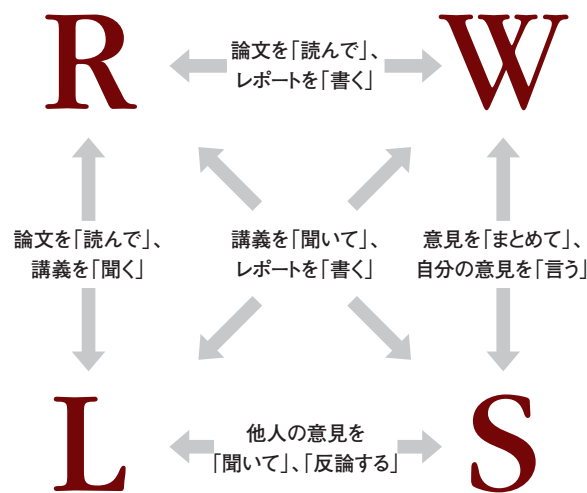
## Application Essay for UK Universities

## 試験対策トレーニング法

英語力判定テストのTOEFL®と大学進学適性テストのSAT®。これらの試験で9割を獲得しなければ、名門校への合格はおぼつかない。それには小手先の試験対策では不十分。英語の4技能を高めることはもちろん、ネイティブにも匹敵するほどのコミュニケーション能力を磨く必要がある。深く速く思考する力と豊かな感性を早い時期から鍛えよう。

### 英語4技能

海外のトップ大学の講義を理解し、ついていくには、英語4技能だけではなく各技能をリンクさせた力が必要になる。英語の論文を読んで講義を聞いたり、講義を聞いて他人の意見に反論したり、テキストを読んでレポートを書いたりする力が必須になります。そのため、日々の生活の中で、英字新聞、興味のある分野の論文や雑誌等英語の文献に触れ、意見をまとめたり、伝えたりするトレーニングをしていくと良い。



## Thinking & Feeling

### 思考を深め、感性を磨くトレーニング

「TOEFL®で100点」の目標に手が届いても「SAT®9割」の壁はまだ越えられない。次の高みに到達するための決め手、それが「思考力」と「感性力」の底上げだ。

#### Thinking

### 速く深く、 英語らしく考える力

日本語で考え、それを英語に置き換えて書いたり話したりするのはニュアンスの違いを埋められず、アウトプットにも時間がかかる。英語で考え、そのまま表現する力をつける必要がある。

#### Feeling

### 言葉を味わい、 感じとる力

ネイティブと対等に渡り合えるようなコミュニケーション能力を身につけるには、言葉の微妙なニュアンスや行間を読む力、いわば文学を味わうような感性と、それを表現する能力が必要だ。

ココを磨く！

#### 発想の転換で「英語脳」をつくる

日本語と英語では、物事を考えるときの言葉の順序が違う。例えば、日本語では「のどが渴いた」から「水が飲みたい」と発想する傾向にあるが、英語では逆に「水が飲みたい」と目的が先に立ち、理由「のどが渴いたから」は後ろにまわる。この語順を常に意識した言葉選びを心がけることが大切。

ココを磨く！

#### 想像力と語彙力をきわめる

同じ単語やフレーズでも、使われる状況によっては何通りにも意味が違ってくる。それらを感じとり、使い分けるためには大量の英文にふれ、読み、書き、話し、書く練習を毎日欠かさないこと。まずイメージを思い描き、それに合致した単語を探して表現する。そのためにも膨大な語彙を蓄えたい。

## SVOCM Training

### 得点力を高める5つの特訓ターゲット

思考と感性の力を高めるものは、的を射たトレーニングと目標設定である。5つのポイントを常に頭に置いて、たゆみなくメリハリのある学習を続けたい。

### S

Speed

「速さ」を追求する

スピードは高得点への最大の武器。常に「倍速」を意識し、素早く考え、理解し、アウトプットする訓練を。ただし、スピーキングではジョギングするように緩めの速さで、よどみなく話すのがコツ。

### V

Vocabulary

「語彙力」を伸ばす

ThinkingとFeelingの土台となり、速さを支えてくれるのが確かな語彙力。SATで満点近くに到達するには、2~3万語の知識が必要だといわれる。熟語・慣用語も忘れずに。

### O

Organization

「構成力」を高める

単に文法力ではなく、英文の構造、文章構成に対する理解を徹底して深める。全体構成がわかれば、次に現れる言葉の意味合いを先読みして、速く深く理解することができる。

### C

Concentration

「集中力」を磨く

TOEFL®もSAT®も数時間におよぶ長丁場。これを持ち切るには、緩急メリハリのある集中力が必要。日頃の勉強でも、適度にリラックスを織り込んだ生活を心がけること。

### M

Method

「方法論」を知る

高得点をマークするには、それなりの試験の受け方や答え方のテクニック、また普段の勉強法、考え方のコツがある。愚直に練習を繰り返す、その勘どころを体得しよう。

# Preparation for the Exams

## TOEFL® Test TOEFL®の基本対策

### 英語力判定基準の国際スタンダード

世界130か国10,000以上の大学・大学院が留学生の入学審査に用いる国際的なテスト。インターネット受験によるテスト(iBT)で英語コミュニケーション能力を測る。毎年複数回実施。スコアは2年間有効。

セクション／配点	出題内容・時間	基本対策
Reading 30点	【問題文】3～4パッセージ 【設問数】各10問 【時間】54～72分	1分間200～400語を目標に、倍速を意識して速読速解の力を鍛える。学術的な長文を毎日欠かさず読むと同時に、小説や雑誌にも親しみ「ネタ」を仕入れることが大切。
Listening 30点	【講義】 【問題数】3～4題 【設問数】各6問 【会話】 【問題数】3～4題 【設問数】各5問 【時間】41～57分	対策の要は3つ。①就寝前に自分のレベル以上の英文を必ず聞く。②1～3分の短い英文を聞き、シャドーイングをする。③短いセンテンスを3段階の速度で何度も繰り返し聞く。
Speaking 30点	全体的問題数：4問 【Independent Tasks】 【問題数】1問 【Integrated Tasks】 【問題数】3問 【時間】17分	スピーチによく見られる決まり文句や話の組み立て方のパターンを知り、説得力を高めるフレーズを数多く覚えること。「風邪→ひどい」など単語と単語のつながりを意識し、名詞と副詞を巧みに使って話す訓練を。
Writing 30点	全体的問題数：2問 【Integrated Tasks】 【問題数】1問 【Independent Tasks】 【問題数】1問 【時間】50分	読んで聞いて書く問題では、正しく理解しまとめる力を、設問に答える問題では自分の意見を書き表す力をつけること。5～8分でアウトラインを組み立てるトレーニングを。

### Key for Success

## TOEFL®で高得点を取るために

### 1 問題を解くリズムをつかむ

TOEFL®は総計3～4時間にもおよぶ長丁場。出題形式や設問内容に十分に慣れておくことが大切だ。過去問題を集めたオンラインの模擬試験で問題を解くリズムをつかみ、自分の弱点を把握して早めに対策を立てよう。また、スコアは2年間有効で、このうち最も高い得点で出願できるので、本番の試験も繰り返し受験したい。

### 2 アカデミックな語彙を増やす

「英語で学ぶ能力」を測ることに重きを置くTOEFL®は、大学の講義やキャンパスでの会話に題材を求めた問題が数多く出される。日頃から日英両言語で学術的な文章に接し、さまざまな専門分野の知識と単語を仕入れること。ニュージーランドのビクトリア大学で開発されたAWL (Academic Word List) が役に立つ。

### 3 要点をメモに書き取る

TOEFL®では全セクションで試験中にメモを取ることが許されている。特にリスニングや、スピーキングとライティングの統合問題では、問題文を聞きながら重要な語句やポイントを逃さずメモに書き取ることが大切。

### 4 英語で要約する訓練を

試験は時間との勝負。速読速解が命だから、頭の中で英語を日本語に置き換えているようでは歯が立たない。普段から英語で読んだことを英語で書き留め、英語で聞いたことを英語で話すトレーニングを心がけたい。

★名門校の要求スコア【TOEFL®】……100 / 120(iBT)

要求スコア100はあくまでも目安。110点台にターゲットを定め、早めに対策を立てよう。

## Question Typeと型を把握

TOEFL®で高得点を取得するには、単語や文法などの基礎力はもちろんQuestion Typeの把握やアウトプットの型を身につけることが大切だ。これらを身につけることで、時間配分が難しいTOEFL®において効率よく情報収集を行い問題に解答していけるスキルが身につく。

### Question Typeの把握

## Reading/Listening

ReadingとListeningではそれぞれ以下のKey Question Type(設問タイプ)がある。

### Reading Question Types

- 事実特定 (Fact Questions)
- 事実でない事特定 (Negative Fact Questions)
- 推察 (Inference Questions)
- 語彙 (Vocabulary Questions)
- 参照 (Reference Questions)
- 言い換え・簡略化 (Sentence Simplification Questions)
- 文挿入 (Text Insertion Questions)
- 著者の意図特定 (Rhetorical Purpose Questions)
- 散文要約 (Prose Summary Questions)
- 表・グラフ参照 (Table & Chart Questions)

### Listening Question Types

- 主題特定 (Main Idea Questions)
- 詳細特定 (Detail Questions)
- 目的理解 (Function Questions)
- 態度理解 (Stance Questions)
- 推察 (Inference Questions)
- 構成 (Organization Questions)
- 内容理解 (Content Questions)

### アウトプットの型の習得

## Speaking/Writing

SpeakingやWritingでは効果的なアウトプットをするうえで型の習得が必要になる。

The diagram illustrates the structure of Speaking and Writing responses. It shows three main sections: 'Introduction', 'Point 1', and 'Point 2'. Each section has a 'core statement' box and a 'concluding statement' box. The 'Point 1' and 'Point 2' sections also include 'example', 'more detail', and 'ending statement' boxes. The 'Introduction' section includes a 'concluding statement' box. The 'Point 2' section includes a 'concluding statement' box.



## トップスクールが求める基礎学力の証

大学進学に適した学力を測る共通試験。難関大学では必須のところが多い。プラクティステストなどで十分に対策しておきたい。

## SAT

【注】試験会場が満席になる時期が早まっているので、早めに申し込みをしておくこと。

セクション 時間／配点		出題形式・内容	基本対策
Evidence-Based Reading & Writing (800点)	Reading Test 65分／52問	文脈を理解し文章を批判的に読む力など、論理的思考力を試す。 [Passage-based Reading] 読解問題 文学(米国または世界)から1題、歴史・社会、科学からそれぞれ2題出題される。また、表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。	出題される英文の論理構成や、文中の各パート間のつながりを深く読み取る力、主張の根拠を探す力が求められる。精読・速読の訓練を積むと同時に、出題される予定の、文学、歴史・社会、科学の各分野のさまざまな英文に慣れること。また、表・グラフなどのデータ付きの英文にも普段から慣れておきたい。また、今回の改訂により、独立した単語穴埋め問題は姿を消したものの、文中の語彙の、文脈の中で意味を把握する力などは引き続き求められるので、語彙力の増強もおろそかにしないこと。
	Writing & Language Test 35分／44問	より適切な英文を作成する力や、文章を論理的に構成する力を測る。ライティングでも、表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。 [Multiple Choice] 選択問題	選択問題では、文法や文体の知識、簡潔な表現、文をつなぐ接続詞、フレイズや(セミ)コロンなども含めた句読点の用法に関する理解などが問われる。各知識の習得はもちろん必要だが、さらに、音読などを通じて日常から英語のセンスを磨くこと。【注】2021年1月に、エッセイ(オプション)の廃止が発表された(※日本では2021年6月まで実施)。
Mathematics (800点)80分／58問		四則演算や代数、幾何などに関する基本的な処理能力を問う。 [Multiple Choice] 選択問題 [Student-produced Response] 記入問題 ※計算機使用可・不可の両セッションあり	改訂により数学の比重が高まったため、確実に得点できるようにしておきたい。日本の中学から高校程度の問題レベルだが、即答できる設問がやや減り、問題文の正確な読み取りがより必要になった。従来出題されなかった分野もやや増える見込み。なお、改訂版では、計算機の使用可・不可のセッションが区別される。数学用語は英語で必ず覚え、満点を目指したい。

## Subject Tests 【注】2021年1月に、同テストの廃止が発表された(※日本では2021年6月まで実施)。

各科目 60分／800点	志望校が指定する科目を5分野20科目の中から選択して受験。 [分野] 英語(文学)、歴史(米国史・世界史)、数学、科学(生物・化学・物理)、語学(中国語・仏語など12科目)	数学と科学は、日本の高校レベルの授業をしっかりこなしていればほとんどの問題が必ず解けるレベル。各科目の専門用語を英語で覚え、練習問題をこなして得点力を上げたい。
-----------------	---	--

★名門校の要求スコア [SAT®] …………… **1500** / 1600 (SAT)

Subject Testsはほとんどの受験者が得意科目を選択するので、受験科目はすべて満点(800点)を目指したい。

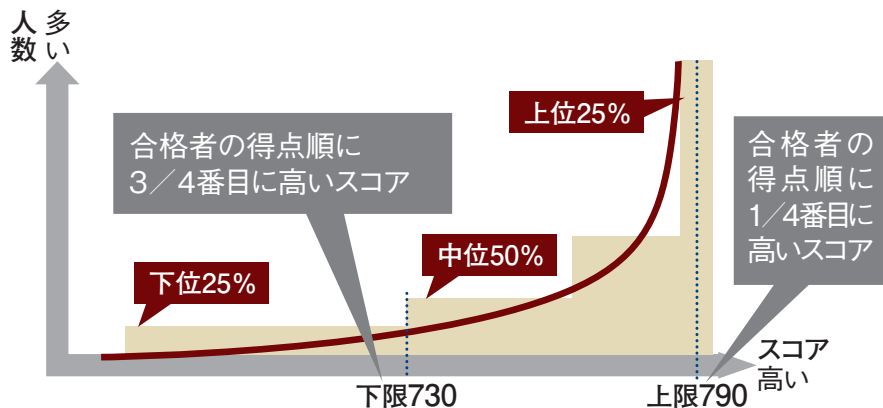
## SAT®スコアの上限・下限について

College Boardが公表している、現時点で予測される来年の入学審査合格者のSAT®スコアは、成績中位50% (Middle 50% of First Year Students) に位置する人の上限値と下限値で示されることが多い。つまり、上位合格者25%と下位合格者25%をあらかじめ除外し、残った中位クラスの最高スコア(上限)と最低スコア(下限)によって、セクションごとの平均的なスコアを表すのである。

例えば、ハーバード大学の場合、Evidence-Based Reading & Writingの上限スコアは790、下限スコアは730だが、仮に合格者が1000人いるとして、250位で合格する学生の得点が790、750位の得点が730と予想されることがここからわかるのだ。

したがって、必ず730点を取らなければ合格できないわけではない。上限・下限のスコアはあくまでも合格への目安として考えよう。

### ◎ハーバード大学合格者のSAT®得点分布図(推定値/Reading & Writing)



## Key for Success

### SAT®で高得点を取るために

#### 1 受験テクニックを知る

SAT®の選択問題では誤答は減点されないの、できるだけすべての問題に解答することを心がけよう。

#### 2 「読解力・速読力」を磨く

個人差はあるが、SAT®においても日本人は他のセクションに比べてReading Testの得点率が落ちやすい。65分で5つの長文問題に取り組むので、従来どおり速読力が求められる。ただし、SAT®のリーディングが「Evidence-Based (証拠に基づく)」と称されることから覗えるように、「根拠を探す力」が問われる。また、難解な語の意味よりも、複数の意味を持つ平易な語が、与えられた文脈の中でどの意味を表すかなどを問う設問が出題されるので、図表問題も含めて、サンプル問題などでさまざまな文章を速く正確に読む訓練を積んでおこう。

#### 3 「文法力・ライティング力」を磨く

Writing and Language Testについては、文法・語法や句読点などの知識を磨いておくことがポイント。ただし、単なる知識としてだけでなく、その知識を踏まえて、英文を正確に書く訓練を積んでおく必要がある。Reading Testと同様、図表問題にも慣れておきたい。

#### 4 受験時期にもストラテジーを

SAT®でもTOEFL®と同様に、スコア・チョイス(複数回受験した場合、受験者が最も高いスコアだけを選んで志望校に提出する形式)が導入されているものの、依然として「各セクションの最高得点を見たいので、すべての受験結果についてスコアを送付してほしい」としている大学も多い。十分に実力をつけてから受験するのが得策だ。

# Scholarship / Financial Aid

## 奨学金について

近年、海外大学進学において様々な奨学金が設けられている。Scholarship という優秀な学生に給付される返済不要の奨学金や、Financial Aid と呼ばれる家庭の収入に応じて学費の補助を行うものもある。資金力のあるアメリカの私立の大学は、優秀な学生には奨学金を多く出してくれることで有名だ。しかし、奨学金を取得するのは簡単なことではない。

奨学金は、「返済する奨学金」と「返済不要の給付型奨学金」に分けることができる。「返済する奨学金」とは、金融機関、日本学生支援機構、日本政策金融公庫などから教育ローンを組む形で利子をつけて分割払いで返済をしていく。「返済不要の給付型奨学金」は下記の3つに分類される。

- 1 国、都道府県、市区町村が給付する Scholarship
- 2 企業、財団が給付する Scholarship
- 3 大学が給付する Scholarship と Financial Aid

Scholarship 取得をするために必要なこととは

一番大切なことは、その大学に入りたいというパッションである。審査の基準には、学校の成績、英語力、課外活動なども入ってくる。しっかりとした志望理由、将来のポテンシャルなどがチェックされる。

### 奨学金の例

#### ◎柳井正財団海外奨学金

米国トップレベルの教育機関への進学を志す日本人学生を対象に、学部4年間の授業料、教材費、保険料、寮費等、就学のために大学より請求される費用を、年間95,000ドルを上限に支給（20名程度）。  
<http://www.yanaitadashi-foundation.or.jp/scholarship>

#### ◎江副記念財団奨学金（学術部門）

海外の大学・大学院等への進学希望者を対象に、年額上限 1000 万円支給（8名程度）。  
<http://www.ezoe-mf.or.jp>  
[info@recruit-foundation.org](mailto:info@recruit-foundation.org)

#### ◎Funai Overseas Scholarship（学部留学）

海外の大学で学位取得を目指す日本人留学生に対し、年間3万ドルを、最長で学部留学中の4年間支給（若干名）。  
<http://funaifoundation.jp/scholarship>  
Tel : 03-3254-5635  
[info@funaifoundation.jp](mailto:info@funaifoundation.jp)

#### ◎孫正義育英財団奨学金

高い志と異能を持つ若者への支援を目的に、留学・研究等において生じる学費や生活費を支給。支援内容・金額・給付期間は選考過程で個別に決定（40名程度）。  
<http://masason-foundation.org>

★グルー・バンクロフト基金による奨学金もある（p. 9 参照）

# Getting a job

## 就職活動について

私たちが海外進学サポートをした生徒の約半数が現地の大学院や現地企業もしくは日系企業の海外支社に就職する。残りの半数は、日本に帰国し外資系企業や日本のグローバル企業に就職する。また、若干だが、他の国で活躍をしたり、自分の会社を立ち上げる卒業生もいる。しかし、海外大を卒業したからと言って就職が簡単であるわけではない。大学在学中にしっかりと学び、課外活動やインターンなどの経験を積むことも大切だ。就職活動では、大学で何をやってきたのかが問われる。

海外大学では、各国のリクルーターたちがグローバル人材を探している。大学や都市部では様々な就職フェアが開催される。下記は、日本企業が多く参加するフォーラムで毎年1万人が参加する。ライバルたちに差をつけるため1年生から顔を出す学生も少なくない。

### ボストンキャリアフォーラム

**2020年度は、世界最大の日英バイリンガルのための就職・転職イベントを4ヶ月間オンラインで実施!**

企業の担当者に直接質問できるライブセミナーや、内定まで出る可能性のあるオンライン面接など、就活のどの段階の方でも活用できるイベント。また全てオンラインで進めることができるので、世界中のどこからでも参加可能!

### 2020年参加企業一部抜粋

ISID-AO (電通国際情報サービスグループ), Aisin Technical Center of America, アクティス, APPLE, アディダス ジャパン, アデコ, アバナード, アマゾンジャパン, アルカディア, Alexion Pharmaceuticals, Inc., ICHIGO CO., LTD, 伊藤忠商事, インターネット・ビジネス・ジャパン, EY, ウィルグループ, Uber, SMBC 日興証券, NTT データ, MHD モエ ヘネシー ディアジオ, L.E.K. コンサルティング, A.T. カーニー, 大塚製薬, 岡三証券, 外務省, CRISP, クリーク・アンド・リバー社, KPMG LLP, 国際協力機構 (JICA), 国際協力銀行, Konami Digital Entertainment Co., Ltd., ゴールドマン・サックス, サンケイエンジニアリング, ザ・リッツ・カールトン日光, ジェネロ, J.P. モルガン, 住友商事 パワー&モビリティ, セガグループ, 積水ハウス, 双日, ソニー, ソフトバンク, 第一生命保険, 大和総研ホールディングス, DELOITTE LLP - 日系企業サービスグループ, Deloitte- デロイト トーマツ コンサルティング, 日本銀行, 日本財団, 日本郵船 (NYK LINE), 日本 IBM, Nintendo, 野村証券, 博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ, バンク・オブ・アメリカ, 日立製作所, PwC Japan, プルデンシャル生命保険, プロクター・アンド・ギャンブル・ジャパン, ボストン コンサルティング グループ, マッキンゼー・アンド・カンパニー・インコーポレイテッド・ジャパン, 三井物産, 三菱商事, モルガン・スタンレー, LINE, 楽天, リクルート, ロバート・ウォルターズ・ジャパン... など

# VOICE

Global Learning Center × Route Hで合格した先輩の声

## Harvard, Yale, Princeton & 東大

### 自分を知り表現するそのプロセスが 未来への道しるべに

柳津聡さん

灘高等学校卒

**合格校** ▶ ハーバード大学／  
イエール大学／  
プリンストン大学／  
東京大学文科一類  
**進学先** ▶ ハーバード大学

### 高2から準備スタート目標と計画をしっかりと

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

海外在住経験もなく、英語を学びはじめたのも中学1年生からです。そんな私が海外進学という選択肢を知ったきっかけは、中学2年のときに同じディベート部に所属していた先輩が米国の大学に合格したことでした。そこから漠然と米国大進学を検討しはじめ、海外の模擬国連や米国大のサマースクールに参加するなかで、同年代の優秀な人材が世界から集う米国大の環境に魅力を感じました。最終的には、高校2年の夏に日米併願を決めました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

海外進学を決断する前から、自らの興味分野である外交に関するニュースや文献に日常的に英語で触れ、楽しみつつ英語力を培いました。中高時代は主にディベート、模擬国連、生徒会に取り組み、全国大会や国際大会に出場しました。また、国際政治への関心を生かし、シンクタンクでインターンをしたり、外務省発行雑誌の論文コンテストで高校生初の最優秀賞を受賞したりしました。課外活動を行う際に受験を意識することが問題とは感じませんが、結局は自分が関心を持てる活動に取り組むのが良策だと思います。テスト類に関しては、中学の頃からベネッセのGlobal Learning Center (GLC)のオンライン講座で、TOEFL®およびSAT®(高2から)の勉強を始めました。GLCの講座は英語学習のよいペースメーカーになりました。高2の10月にSAT Reasoningを初めて受け、高3の5月に再度受験して終了。SAT Subjectは高3の6月にMath 2とPhysicsを受験しました。SATは公式ガイドの模試とKhan Academyの練習問題を反復演習することで、問題と解法をパターン化し、安定してスコアが取れるようになりました。これらのテスト類はいわば足切りのようなものと考え、高3の夏前にテスト受験は終わらせ、エッセイに集中することになりました。

エッセイは高3の夏前からトピックを検討、8月から本格的に書きはじめました。9月から早期出願のための個別大エッセイを開始し、締め切りに間に合わせることができました。その後は、主に通常出願のための個別大エッセイ執筆が続きましたが、早期出願をした大学に運よく合格したこともあり、12月終盤の負担は相対的に少なく済みました。

東大受験の対策ができるようになったのは年始からですが、課外活動で培った英語力や社会に関する知識で無事乗り切ることができました。総じて、高2の夏から月ごとの目標をしっかりと決め、計画立てて駆け抜けた受験プロセスでした。

### 主観と客観のバランスで自分という人間を表現

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

共通願書のパーソナルエッセイの題材がまったく定まらずに苦労しました。最終的に10の異なる題材について草稿を書き、8つ目のトピックを本番に用いました。8月中に書いたエッセイはほぼ受験で使用せず、秋には焦ることも多々ありましたが、納得がいくまで悩み続けてよかったと思います。

また、高3時はエッセイ、テスト類、課外活動、奨学金といった心配事が多かったのですが、休息をしっかりと取って自分を追い詰めすぎないように努めました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

アプリケーションのそれぞれの要素でどのような自分の側面を見せているか、という各要素間の役割分担が心がけました。活動歴で述べた内容を単に繰り返すのではなく、そこから得た成長や見識をどう他の場面で生かしているか、その活動の裏にはどのような苦労があったのかなど、自分の成果をcontextualizeするようなストーリーがエッセイや推薦状で述べられていると、他の志願者との差別化につながります。

このように、僕はアプリケーションを俯瞰的・客観的に考える傾向がありました。しかし、最も重要な共通願書のパーソナルエッセイには、「他人が何を言おうとこれが自分だ」という強い感情がこもったエピソードを選びました。この主観性と客観性のバランスが自分という一人の人間を書類上で表すうえで大事だったと思います。

—— Route Hに入ってよかった点は？

私は関西に住んでいたため、主にSkypeを用いてエッセイのアドバイスを受け、出願締め切り直前には上京して対面で指導を受けていました。Route Hの講師やスタッフの方は妥協することなく、何十回もエッセイの添削をしてくださいましたし、そのアドバイスの中には大学合格だけでなく、生徒の将来を思ってこそその言葉も多くありました。また、同じ挑戦をする仲間と支え合えたことは大きな励みになりました。彼ら・彼女らとの縁をこれからも大事にしていきたいです。

## 理論と実践の両輪で国際政治を追究したい

—— 後輩へのメッセージをお願いします。

アプリケーションへの向き合い方に絶対の正解はありません。同じ大学に合格した生徒でも工夫した点は異なります。これを読んでいる皆さんも、できるだけ多くの合格体験談を読んで、自分の境遇に合いそうなものを参考にすればよいと思います。私にとっては、海外受験の核はいかに自分自身を表現するかを突き詰めることでした。自分をワクワクさせるものや、成し遂げたい夢、忘れられない記憶などに向き合い、それらに投影された自分だけの色を探していく。その過程で得られた気づきは、出願が終わった後も将来の道標になるでしょう。幸運をお祈りしています。

# VOICE

Global Learning Center × Route Hで合格した先輩の声

## Harvard, 東京外大、慶応 & 上智

強く、ブレない、  
粘る気持ちで最後まで突っ走れ！

佐野月咲さん

筑波大学附属高等学校卒

合格校 ▶ ハーバード大学 / 東京外国語大学 /  
慶應義塾大学経済学部 /  
上智大学外国語学部英語学科 /  
国際基督教大学

進学先 ▶ ハーバード大学

## アイスホッケーでいざ、ハーバードへ

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

東京生まれの東京育ちで、留学経験もなく、高校2年の冬まで海外進学という選択肢すら知らなかったし、知ろうとも思っていませんでした。その高校2年の12月のことです。1年のとき初めて選出されたアイスホッケーU18日本代表メンバーから落ち、ホッケーをプレイしていく未来を考えたとき、海外に出るという選択肢が初めて現実のものとして見えてきました。学問で知られているハーバードやイェールといった大学がスポーツでも名門であることを初めて知り、どのくらい大変かもわからないままアイビーリーグでプレイすることを目標にしたのが始まりでした。



### —— 出願準備はどのように進めましたか？

主に、①アイスホッケーのチームに売り込み、アスリートとして入学を決めることと、②TOEFL®、SAT Subject Test™で高得点を取ることに時間をかけた1年間でした。

アメリカのVarsity Sports(大学スポーツの代表チーム)では、コミットメントといって、一般の出願前から入学が決まっていることが多く、特にアイスホッケーは人気なので、Grade 9(日本の中学2年)からコミットしている人もいます。そのため、私が高3の春にアイビーリーグ各チームのコーチを訪ねたときは、次の入学年度とその翌年のロstersポット(出場登録選手)はほとんど埋まっていました。

アイスホッケーをプレイできなければ元も子もないので、1年入学を遅らせることも視野に入れ、自分が出場した試合のビデオを送ったり、テストスコアを送ったりしつつ、7月にはハーバードとプリンストンのアイスホッケーキャンプに参加。また、たくさんの大学のスカウトが集まる大会にも出場しました。そのハーバードのサマーキャンプで、コーチ、スタッフ、雰囲気のすべてに魅了され、身の丈も知らずに「自分にはこしかない」という思いが芽生え、何としてでも入ると決意したのです。

出願の意思を固めたのが高3の4月、そこからTOEFL®とSAT®ともに準備を始め、要求レベルのスコアにまで上げるのにラストチャンスまでかかりました。エッセイを本格的に書き始めたのは9月ごろです。

## エッセイを工夫、文武両道を打ち出した

### —— 準備で苦労されたことは？

SAT®は6月から1月まで計4回受け、最終的には最初のスコアから150点伸びました。最終スコアも決して十分なものではありませんでしたが、毎回着実に伸びていったのはプラスに働いたと思います。ただ、TOEFL®には苦戦しました。6月の初受験で80点。ハーバードの早期出願では100点に届かず、通常出願前のラストチャンスでやっとの100超えでした。TOEFL®を受けた回数は誰よりも多いと思います。Route Hで教えてもらった方法でリスニングとスピーキングを強化できたこと、最後まで粘ったことがよかったと思います。

エッセイは、今まで英語でしっかりと書いたことがなかったのですが、何度も何度も粘り強く教えていただき、最終的には自分の中の最高作がいくつかできたと思っています。

### —— 願書全体で心がけた点を教えてください。

私の場合、自分の推しポイントがアイスホッケーに偏っていたので、他のイメージを伝

えるように心がけました。アカデミックな面、文化的な面が伝わるような構成です。どのエッセイをどのトピックで書くかを考えるだけでも、十分に願書のイメージが変わると思います。

## 覚悟ある前進で大きく拓けた世界

### —— Route Hに入ってよかったことは？

何も知らない、経験もない私をゼロから育て上げてくれた場所です。Route Hの仲間と出会うことで、大きく世界が広がりました。今まで自分が経験したことのない世界を見ている人がいる。こういう人材が世界で活躍するんだ、とその価値観やあり方にとても刺激を受けました。出願日が近づき、一人ひとりにかかるストレスが増す中でも、同じ空間で意見を出しあい、言葉を交わし、家族のような感覚で過ごせたことが、この過酷な出願時期を私自身が楽しめた大きな要因だったと思います。

また、米国受験について何も知らない私に基礎から教えていただき、エッセイだけでなく、推薦状も、課外活動のことも、何から何まで相談させてもらいました。些末なことも親身になって考えてくれるので、本当に不安要素がなくなっていきました。それに加え、たびたび指導に来てくれる先輩方からいろいろな話が聞けて、具体的なイメージをつかむこともできました。

### —— 後輩へのメッセージをお願いします。

海外の大学に進むことにはそれなりのリスクも伴い、自分も家族にとっても覚悟が必要だと思います。同じ場所を目指す仲間も、持っているものはみなバラバラで、自分と比べられるものなんて1つもありません。自分自身をしっかりと見て、自分の道を信じて、楽しんで進んでいくしかないのです。気持ちだけで何とかなるとは言いませんが、最後に自分を助けてくれるのは、強く、ブレない、粘る気持ちなのだと思います。

恥をかいてもいい、失敗してもいい、とにかく進めなきゃ！今は失敗だらけでも、ビリギヤルみたいになってやる！——私にとっては、そうと思っていた1年です。今を楽しんで、出会いを大切に、まわりの人への感謝を胸に、突っ走ってください！

# VOICE

Global Learning Center × Route Hで合格した先輩の声

## Columbia, U Penn & U Michigan

### 地方公立高校から、GLC+Route Hを活用し、IVYリーグ2校合格

谷口友哉さん

愛知県立西春高校卒

合格校 ▶ コロンビア大学 /  
ペンシルバニア大学 /  
ミシガン大学

進学先 ▶ コロンビア大学

### 高3でも積極的に課外活動に取り組む

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高2のAIG高校生外交官プログラムです。出会った仲間の様々な興味や考えに刺激される日々を過ごし、大学は多様性溢れる環境で学びたいと思いました。柔軟な教育、英語を話す環境、自己主張が求められる文化にも魅力と成長の機会を感じ、米国受験を決めました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

高2の秋から本格的に海外受験を始めました。10月にベネッセのGlobal Learning Center(GLC)に入り、そのおかげで、高3の5月までにSAT®やTOEFL®で満足する点数

を取れました。今まで課外活動も書道と高校生外交官プログラムだけだったので、高3に入ってからアジアサイエンスキャンプや「知の探究講座」など、積極的に校外プログラムに参加しました。これができたのも早期の内にSAT®やTOEFL®を終えることができたからだと思います。高3の半ばからは奨学金、Early、UC系、Regularと、目の前にあることに一つずつ取り組んでいきました。学校では国内に向けて、家ではアメリカに向けてと場所に応じてやることを切り替えるようにしました。

### 情報不足を痛感し、早めに情報収集を行う

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

地方在住ということもあり、必要な英語書類からCommon Applicationの埋め方まで知らないことだらけでした。調べたり、Route Hのスタッフの方より教えてもらった情報を自分の中で整理して、家族や先生方に説明、お願いすることを繰り返しました。周りも初めての海外受験にも関わらず、自分の進路に理解を示してもらい、最後の最後まで温かくサポートして頂いたことがとても有難かったです。早めの情報収集、また家族と学校との情報共有は両方ともとても大切です。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

最終的に自分が納得した状態で出すということを大切にしました。そうすれば結果がどうであろうと後悔することはないと思ったからです。自分が最も力を入れていたエッセイのテーマがなかなか決まらず、出願直前の数日間で8回も題材を変えました。結果的にそのエッセイを出した大学には落ちてしまいましたが、自分の中で考えぬいた末にたどり着いた方向性だったため、気持ちよくその結果を受け止めることができました。

—— Route Hに入ってよかった点は何ですか？

まずは共に海外進学を目指す仲間です。年末の大変な時期に、話せる友達がいなかったのは本当に心強かったです。また私は愛知に住んでいたため、実際に東京に行ったのは2回だけですが、Route Hで過ごした数週間が一番エッセイ執筆に打ち込むことができました。もちろん、志望校決定までのサポートやエッセイ指導もなくてはならないものでした。

## Stanford, Wellesley & Seoul National U

### 地方の高校から久々のスタンフォード合格 SATは一挙に200点以上アップ

黄允珠さん

九州学院高校卒

合格校 ▶ スタンフォード大学/  
ウェルズリー大学/  
ソウル大学

進学先 ▶ スタンフォード大学

### エッセイは出願直前まで書き直しの連続も何とか提出

#### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高1の時に担任の先生に勧められ応募した県のプログラムで、県庁の職員の方から海外大学を勧められたのがきっかけです。幅広い分野をとことん追求できるリベラルアーツの教育と世界中から集まった優秀な学生と共に勉学に励むことができる環境に魅力を感じました。

#### —— 進学準備はどのように進めましたか？

海外大学進学を考え始めたのが高1の冬で、実際に決めたのが高2の夏でした。海外大進学を決めてすぐにSATの勉強を始めましたが、最初は想像以上に点数が低く、一年

くらい伸び悩みました。しかし、コツコツと対策することでアーリー出願前には200点以上伸び、目標以上のスコアで出願することができました。SAT subjectはMath 2とChemistryを高3の6月に受験し終了。課外活動の面では、スピーチやボランティア、法律事務所でのインターンなど、自分が興味のある活動をするという事を意識しました。エッセイは高3の夏に少しずつ書いてはいましたが、エッセイ執筆を本格的に始めたのは9月末です。最初は何を書けばいいか、どのように書けばいいかも分からず、書いては消しての繰り返しでした。受験直前にエッセイのトピックを変えた時は焦ることもありましたが、それでも自分の満足するまで悩んで良かったと思います。

### エッセイでは経験をどう活かすかも述べ、 ポテンシャルをPR

#### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

海外大進学を決めたのが比較的遅かったため、テストのスケジュールが大変でした。夏に韓国の大学の出願準備と課外活動で勉強する時間をなかなか確保できなかったため、エッセイと並行してSAT®をアーリー出願ギリギリまで準備していました。高3の秋くらいからはエッセイに集中することができるよう、その前に出来るだけ早めにテストなどは終わらせておくことが海外大受験成功のカギだと思いました。

#### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

願書の一つ一つで自分のどういう面をアピールしたいのかを考えるようにしていました。海外大学は生徒を総合的にみて判断するため、願書全体を通してどれだけ多く自分の魅力を伝えることができるかが大事だと思います。また、エッセイを書く際に、経験から学んだことを書くだけで終わらせるのではなく、どのように活かしたいかなどを述べることで、将来のポテンシャルをアピールすることを心がけました。

#### —— Route Hに入ってよかった点は？

Route Hの講師やスタッフの方々が一人一人に寄り添い、最後の最後まで何度もアドバイスをして下さったことです。また、一緒に受験期を乗り越えるだけでなく、一生仲良くしたいと思える仲間に出会えました。Route Hはすべてのことに全力投球する仲間の頑張りや互いに認め合い、また高め合う雰囲気に溢れていると思います。

# VOICE

お茶の水ゼミナール海外大併願コース × Route Hで合格した先輩の声

## Harvard, Yale, Williams

楽しんでほしい

自己を知る者だけに見える「開かれた世界」

石井秀俊さん

筑波大学附属駒場高等学校卒

合格校 ▶ ハーバード大学／  
イエール大学／  
ウィリアムズ大学 ほか

進学先 ▶ ハーバード大学

## 現地訪問で決意した刺激に満ちた米国大進学

—— 海外進学を考えはじめたのはいつですか？

高校2年の夏休み、まだ国内大を目指していたとき、毎日同じような問題を解き、すでに身につけた知識を再復習するような日々を続けざるを得ず、何か物足りなさを感じていました。そうしたなか、Route Hの尾澤さんと話す機会があり、海外大学進学という選択肢を意識するようになりました。消極的な理由で海外進学をするのはどうかと考え、そもそもなぜ大学に行くのかなど、自分に問うべき問いを考えはじめました。

—— なぜ海外大進学を決めたのですか？

上記のような経緯があり、高校2年の終わりに大学訪問に行きました。寮で交わされる

背景のまったく異なる学生同士の濃密な会話や、講義や議論で学生と真剣に向き合うことによって学問の面白さを伝えようとする教授たちとの出会いがあり、海外大を目指すことを決意しました。その頃、メルボルンのシンクタンクが書いた都市と住人の精神状態の関係についての論文と偶然に出会い、都市学に強く興味を持つようになりました。学際的なアプローチが必要な分野なので、海外進学への気持ちがさらに強まりました。

## 自分とは何者なのか自問自答で手にした成果

—— 進学準備について聞かせてください。

TOEFL®やSAT®はテスト形式に慣れるのには時間がかかりました。しかし、6～8歳までアメリカに住んでいたことや、国内大学のために文法や語彙をしっかりと勉強していたこともあり、比較的少ない努力で問題のない点数を取ることができました。

一方、漠然と専門職に就こうと考えていたこともあり、将来のことや、自分とは何かなどの問いを考えるのに大変苦労しました。それまで行ってきた課外活動の裏にはどのようなモチベーションがあったのかを整理し、その過程で自分という人間がどのように変わったのかを考えました。自分の中の普遍的な部分についても考察しました。

このような自問自答の日々の成果として、なぜ自分が都市に興味を持ったのかと言語化できるようになりました。自分の興味が明確であったことに加え、自分の軸が形成されつつあったこともあり、高校最後の1年間に行う課外活動は自然と決まりました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

アメリカの大学は“holistic”に自分という人間が見られると聞いていたので、自分の全体像がどうしたらAO(Admission Officer)に伝わるのか真剣に考えました。その結果、学校の成績や推薦状、APテストなどで伝わる自分の学業面についてはエッセイでは一切触れず、自分の他の側面を積極的に出しました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

毎日のように仲間と対話をする中で、かけがえのない友情を築くことができましたし、自己の発見という、迷い込んでしまうような冒険の中で、一步一步確実に進むことができました。また、海外大進学という日本の高校では一般的ではないものを身近に感じ、自分が経験したことがない考え方にも触れる機会を先生方が与えてくれました。現在の「自分」はRoute Hの仲間や先輩方、先生方なしには存在しません。

## 世界一恵まれた環境で学問を究め、成長したい

### —— 4年間の大学生活、どう過ごしますか？

学業面では、都市についての授業をHGSD(Harvard Graduate School of Design)で取り、さまざまな側面から多様で複雑な都市について考察するとともに、これまで触れたことのない分野の授業も積極的に取って視野を広げたいです。分野や進みたい道によっては高度な専門性が欠かせない場合もあると思いますが、専攻分野を決めたら、そのrequirement以上にその分野を深めるのか、あるいは未知の他分野の考え方・フレームワークに触れ、違う観点から自分の専門を見る努力をするのか、について真剣に考察する必要があります。现阶段では後者にするつもりです。

授業外では、高校時代と同様、研究をしたいと考えています。人間がどのように知を進歩させてきたのかを垣間見ること、つまり人類の根本的な原動力を知ることは、将来研究者になるか否かに関わらず、重要なことだと考えています。ハーバードには世界中から面白い研究をしている教授が集まっています。その指導が直接受けられる環境を積極的に利用して、自身を最大限に成長させていきたいです。

恵まれた環境にいる者の義務として、世の中への還元もしていきたいです。Public Serviceが盛んなハーバードにおいて、同志を積極的に見つけ、一人では解決が難しい大きな課題に向かって皆で果敢に挑戦し、よりよいコミュニティを築きたいです。

### —— 後輩へのメッセージをお願いします。

何事を行うにしても、自分の興味や信念に沿って真剣に真摯に取り組むと、興味の追求だけでなく、自己の追求ができると思います。そのような過程を経た者だけに見える「開かれた世界」を楽しめるといいます。

# VOICE

お茶の水ゼミナール海外大併願コース × Route Hで合格した先輩の声

## Wellesley, UCLA & 慶應大法(政治)

### ディベート世界大会始め様々な活動に注力 お茶ゼミ・Route Hで学び、最難関女子大に合格

石川満留さん

渋谷教育学園渋谷高等学校卒

合格校 ▶ ウェルズリー大学 /  
UCロサンゼルス校 (UCLA) /  
慶應大法(政治学科)

進学先 ▶ ウェルズリー大学

### 高3前半は志望分野に直結した活動に取り組む

#### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

4歳までニューヨークに住み、姉が海外大学に通っていますが、進路の決断に恐れを抱いたまま、高2の5月まで漠然と国内大学進学を考えていました。しかし、高2で様々な国際大会に出場し、実際に海外大学を卒業された方々にお会いした中で、自分の興味ある国際関係学(特に東アジアの外交情勢の客観的分析)やジェンダー学がアメリカで発達していることを知り、必然とアメリカの大学に惹かれていきました。また、ディスカッションベースの授業や教授との連携が密という今までにない教育体制に魅力を感じ、深化した英知や考察力を会得でき、さらに多様な文化・人種・価値観が存在する中で人間的にも成



長でできると思ったので海外受験を決意しました。

#### —— 進学準備はどのように進めましたか？

課外活動は好きなこと、挑戦したいことを行っていました。比較的校内と外部の活動のバランスが良かったと思います。学級委員長を高校3年間や剣道を6年間やり、中3から始めた模擬国連や英語ディベートでは日本代表として様々な世界大会に出場しました。幸い、海外大学を意識していなかった時期に受賞歴がある程度確保したので、高3では専攻に関する活動、高校生G20サミットの立ち上げや政治系インターンなど、独自性のあるものを展開することができました。

テストに関しては、TOEFL®よりSAT Reasoning対策に圧倒的に時間を費やしました。読むスピードが遅く読解で苦しんだので、お茶ゼミのSAT対策で、分野ごとのミスの傾向を分析したり、先生との個別質問では解いた過去問で分からなかったところを毎週限なく聞いたりしました。またSAT Subject Testsも伸び悩んだため、テスト類に掛けた時間が多くなってしまいました。とにかく回数と解き直しを重ねていました。

私の場合、エッセイは段落構成などを念入りに計画した上で書き始めるタイプだったので、とにかく題材とテーマの組み合わせ選びに集中しました。夏休み中はひたすらプレストと下書き作成。そこからCommon ApplicationやSupplement Essaysに何となく分けて時期ごとの比重を変えていました。エッセイを沢山書いたものの、自分の表現技法のスタイルが定まったのが9月後半から10月前半と遅い時期だったので、その後は猛スピードで磨きあげに取り掛かりました。

## 課外活動とのバランスに留意したエッセイ戦略

#### —— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

高校のGPAで悩むことはなかったですが、私は8月9月にAO入試、学校の勉強、エッセイに加えて高校最後の課外活動であったインターンをこなしていたので前持った計画の維持に苦勞しました。またSAT Reasoningの点数が伸びず最後まで受けていたので全て片付いた先にRegular Decisionが迫り、深夜までエッセイを書いていた時は、精神管理と体調管理に細心の注意を払っていました。Short Supplement Essaysのインパクトの付け方が難しく大変苦勞しましたが、Route Hの先生方に逐一相談し不安を解消していました。

#### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

活動一覧や推薦状で受賞歴など華々しい側面をみせたので、エッセイでは個人的エピソードを軸にしたり、専攻や興味ある学問分野への情熱を語ったりし、バランスの取れた多面的な要素を盛り込んだ点です。例えば「剣道で見出した自分に打ち勝つ精神」や「外交姿勢がもたらすイメージと個人への影響への葛藤と解決策」など自分の核となる部分を表現できました。また、あくまでも自分のエッセイなので自身が描写したい納得するものを作成することが大前提ですが、他者から見た自分の姿からも新鮮なアイデアを得ることができるので家族や近い友達に他己分析をお願いしました。

#### —— Route Hに入ってよかった点は？

言わずもがなですが、エッセイの題材プレストからストーリー展開、書き方の基礎を丁寧に指導して頂いた点です。相談しながら書き進められる環境は英語力の向上だけでなく、自分をオープンに見つめるのに最適でした。また先生方だけでなく、受験中のもどかしさや焦りを共感しお互いのストーリーに耳を傾ける友人に出会えた素晴らしさ、アドバイスをくださる先輩との交流の全てが良かったです。Route Hコミュニティの一員になれて本当に嬉しいです、大変感謝しています。



## Princeton

### 米国の高校からプリンストン早期合格 トリプルAも意識し、高いレベルでのバランスを実現

樫村樹理亜さん

The Taft School 卒

合格校▶ プリンストン大学／

進学先▶ プリンストン大学

### バランスをとりつつ、 突き抜ける部分もあるという理想を体現

#### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高校からアメリカのボーディングスクールに通っていたので、周囲の環境に影響され自然にアメリカの大学を志望するようになりました。その中でも、世界中から優秀な学生や教授が集まり、最高峰の学業とNCAA-1部リーグで競技ゴルフができるアイビーリーグを目指しました。

#### —— 進学準備はどのように進めましたか？

アメリカではよくバランスのとれた人格形成の指標として、Athletic、Academic、Artの頭文字を取ってトリプルAという概念があります。アイビーリーグもトリプルAのバラ

ンスが取れた学生を好む傾向があると言われていています。私は、ゴルフ、STEM部活、フルート活動をメインの柱として願書を組み立てました。

Academicは、学校の勉強を中心にGPAとSATのスコアをあげることに集中しました。また理数系の課外活動としては、Math Team、Science Olympiad、Robotics Teamのメンバーとして州やリーグの大会に参加し、個人やチームで受賞しました。Athleticでは、高校のゴルフ部のキャプテンとしてチームを引っ張りNew England地区大会で優勝しました。学校外でも夏休み中に全米各地のトーナメントに出場して、ジュニアランキングを上げるように努力した結果、全米32位まで上がりました。また、Artでは、第一フルート奏者として高校のオーケストラで地域の音楽祭や教会での演奏活動もしていました。これらの成績や活動を願書に盛り込み、自分のユニークな才能の組み合わせをアピールしました。

### 出願書類はサッカーボールのようなパッケージ。 重要だった大学訪問

#### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

高校ではしっかり勉強していたのでGPAには自信がありましたが、SAT®のReadingの成績がなかなか伸びなくて苦労しました。過去問を解くだけでなく、さらにSAT®解答のテクニックを研究したことによって、目標のスコアを達成できました。エッセイで苦労したことは、テーマ選びです。他の出願書類であまり触れられていない自分の性格や、知ってもらいたい自分のユニークな視点や考え方を書くことにしました。当初、出願エッセイの書き方がよく分からなかったのですが、ルートHのきめ細やかな指導を受けながら、最終的には満足できる仕上がりになりました。

#### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

出願書類は、いわば、サッカーボールみたいに多面的にかつ総合的に、自分の人物像を表現するパッケージだと思います。私の場合、ゴルフの実力や学校の成績には自信があったので、自分がどんな人間なのか、どういうユニークな能力や興味を持っているのか、色々な角度からアピールするように心がけました。出願プロセスを振り返った時に、直接大学を見に行ったカレッジビジットの経験が非常に重要だったと思います。ビジット前は先輩からの話や、web情報、ランキングのみで志望校を考えていました。実際、どの大学が本当に自分にあうのか知りたかったので、志望するアイビーリーグ5校を直接訪問しました。プリンストンのキャンパスツアーに参加しながら、直感的に「私にはここしかない！

ここに来るんだ!」と強く思いました。その後は強い決意を胸に、高いモチベーションを維持し、SAT®に取組み、進学準備を進めました。その結果、プリンストンにEarlyで合格することができ、第一志望一校のみの受験となりました。まだ志望校が決まってない場合は、カレッジビジットを強くお勧めします。

—— **Route Hに入ってよかった点は何ですか？**

高校のカウンセリングでは生徒数も多いので出来上がったアプリケーションをベースに指導をしてくれますが、Route Hでは生徒一人一人に適した方法でアプリケーション作成プロセスに、最初から最後まで懇切丁寧に指導して頂きました。日本から離れた遠くの地においても、一つのチームとしてオンラインで指導してもらい非常に心強かったです。エッセイを書く上で、自分の人生を振り返るいいきっかけになりました。自分を知ることで、未来の方向性も明確になり、これからの新しい大学生活のスタートラインに立つ事ができました。

## Johns Hopkins, Carnegie Mellon & UCLA

### 米国の高校からジョンズホプキンス合格 一時帰国時の夏は、2か月間東大で研究

関口愛未さん

Berkshire School卒

合格校 ▶ ジョンズ・ホプキンス大学／  
カーネギーメロン大学／  
カリフォルニア大学ロサンゼルス校

進学先 ▶ ジョンズ・ホプキンス大学

### 高校での多彩な活動+夏休みも日本の大学での研究を実現

#### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

幼稚園からインターナショナルスクールに通っていましたが、中学2年ごろから「更に広い世界が見たい」と思いアメリカ・マサチューセッツ州のボーディングスクールに進学しました。高校からアメリカだったので自然とアメリカの大学中心に受験しました。

#### —— 進学準備はどのように進めましたか？

エッセイに集中したかったため、SAT®はJunior Year（日本の高2）の時点で終われるよう早めに勉強を始めました。3月ごろからぼんやりとエッセイのテーマやエピソードなどを考え始め、思いつく度にメモを取っていました。受験前の最後の夏休みは2ヶ月間、東

大医科研のラボで免疫細胞の研究を行いました。また、TOEFL®はこの時、7月に終わりました。短い間でしたが、ほぼフルタイムで研究したため、少し成果を出すことができ、この経験をどの大学にも全面にアピールしました。それ以外にも、学校では新聞部編集長、クロスカントリーのキャプテン、生徒会、アジア人クラブ発足、Writing CenterとMath Resource Center（生徒が生徒に教えるヘルプセンター）の運営など、幅広く活動していました。エッセイを書き始めたのは6月で、いかに「小説のように読者を惹き込めるか」「アドミッション・オフィサーに自分を好きになってもらえるか」を考えて何度も書き直しました。

### 本当に描きたいシーンに集中したことで、 エッセイが向上

#### —— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

私は課外活動と受賞歴がRoute Hの仲間より弱かったので、エッセイのプレッシャーが高かったです。何度書き直しても一向に良くなる気がなくて、突き刺さるメッセージを伝えること、簡潔に情景を描くことに苦勞しました。徐々に気が付いたのですが、私は短い文字数の中で入れたいことが多すぎて、結局何も伝わっていない場合が多く、本当に描きたい一つのシーンに集中したら印象に残りやすいエッセイが書きやすくなったと思います。

#### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

私は理系で受験しましたが、「アジア人×理系」はガリ勉な印象になりやすい気がしたので、課外活動の10項目やエッセイでバランスをとることを心がけました。13歳の誕生日会の思い出を書いたり、アメリカの高校での新聞部やWriting Centerの活動で英語も強みであることをアピールしたり、クロスカントリーやアカベラなど、とにかく多面性と人間味を意識しました。

#### —— Route Hに入ってよかった点は？

刺激的な日本人学生のコミュニティに入れたことです。私は留学していたこともあり日本人のネットワークに入れていなかったもので、世界中の大学に様々な目標を持って進学する同年代の日本人と仲良くなれて本当に嬉しいです。

# VOICE

Route Hで合格した先輩の声

## Harvard, U Penn & Cornell

### SATほか、自己管理・時間管理に苦勞するも ハーバードはじめ、IVYリーグ3校に合格

菊田真理さん

東京学芸大学附属国際中等教育学校卒

合格校 ▶ ハーバード大学 /  
ペンシルベニア大学 /  
コーネル大学

進学先 ▶ ハーバード大学

### 子ども食堂でのボランティア、校内の活動にも注力

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

小6から中2までアメリカの中学校に通っていた経験から、帰国してからもアメリカの大学に行きたいという思いが燃り続けていました。高2の夏に参加したサマーキャンプで、日本全国から集まる、学校外で目覚しい活躍をしている高校生達に出会い、自分も外に出て挑戦したいとアメリカ大学専願を決めました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

高2の秋からTOEFL®とSAT®対策を始めました。TOEFL®はその冬に終わらせることができましたが、SAT®は高3の12月までテストを受けていました。

課外活動は、子ども食堂でのボランティアや研究、体育祭運営、山岳部などが挙げられます。高1の時はとりあえず興味を持ったことは全て挑戦し、次第に好きなもの得意な物の優先順位が高くなって、最終的にコミットできる活動を見つけられました。

エッセイを始めたのは高3の7月です。書きたい自分の軸はあらかじめ決めていましたが、それを読み手にも共感してもらえるよう、常に自分のアピールしたいことが読み手に伝わっているかのフィードバックを様々な人からもらっていました。

### SAT対策は早めの開始を。願書は「統一性」重視

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

何よりもSAT®のスコアを上げることですが、根本的な原因は自己管理と時間管理にあったと思います。忙しい時は、学校とは関係ないSAT®の勉強に手が回らず後回しにしてしまいましたが、結局受験の終盤で全てのしわ寄せがきて、自分の体調やエッセイにも大きく影響しました。特に想像力が必要なエッセイ等の自己PRの作業に、ベストの体調で臨むためにも、SAT®等の勉強は前から生活習慣として取り組むと、最後の悩みの種にならないと思います。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の軸が、パッと願書を見たときに伝わるかどうか、それがエッセイ、推薦状、活動に紐づけられていて、統一性があるかということを重視しました。概念的な自分の軸が、具体的にどのような性格や経験から現れているかを、多面的にバランスよく伝わるように構成を考えました。また、自分のどういう面を見せるべきか否かの取捨選択も気をつけて行い、間違ったイメージを与えないように注意しました。自分の軸を探している時は、あえて自分の弱みに着目して、その時の感情や状況を分析することで、自分の問題意識や強調される強みが見えることに気がきました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

プロ講師の方にエッセイを厳しく見ていただいたことです。それぞれのネイティブ講師の異なる視点からのフィードバックは大変参考になりました。また、Route Hで出会った人たちと励まし合いながら受験を終えたのは、辛いながらもいい思い出で、今後も切磋琢磨していけるような仲間ができました。

## Harvard

### エッセイやsubject testでは苦勞するも 様々な活動に物凄い行動力を発揮しハーバード合格

S.H.さん

聖光学院高等学校卒

合格校▶ ハーバード 大学

進学先▶ ハーバード 大学

### 幼少時からの思い×情報収集×多彩な課外活動が結実

—— 海外進学を考えたきっかけはなんですか。

幼少期をアメリカで過ごした私は、現地校で親しくなった友人との別れの際に「将来、同じ大学に行こう」と話していました。そのころから心のどこかで「アメリカの大学に進学したい」という思いがありました。そして、高校に入ってから説明会などで、米国大学へ進学した先輩方の話を聞くうちにその思いは一層強くなりました。「世界中から学生が集まること」、「理系文系、学部にとらわれない勉強ができること」が決め手となり、高3から米国受験に真剣に取り組みました。

—— 進学準備はどのように進めましたか。

海外大学受験では提出する書類が多いので、スケジュール管理をするようにしました。また、課外活動については、受験のためではなく興味のある活動に積極的に関わっていました。僕は学校の行事や活動が高二の間は続いたため、テストの準備は高3から始めました。

### エッセイに苦勞するも、リライトをやり続けて 書きたいことの優先順位が明確化

—— 進学準備を進める上で苦勞されたことは。

満足いくエッセイが書けず、メンタル面で苦しみましたが、そんな中でも自己分析やエッセイの書き直しをやり続けた結果、自分の書きたいことの優先順位が明確になっていったと思います。また、メンタルが大変な時は「全部落ちても別に人生の終わりではない」と自分に言い聞かせていました。

SAT Subject Testは文系科目が限られているため、文系である私は科目選択に苦勞しました。結果的に世界史を受験しましたが、Subjectの中では一番問題数が多く、授業で習う世界史と異なる部分も多かったため、勉強に時間がかかりました。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の色々な側面を伝えるように意識しました。また、サブリメントエッセイ(各大学独自のエッセイ)のような短いエッセイは具体的に書くことを重視しました。短いエッセイも軽視せず、自分のユニークさを説明し、差別化することを心がけました。

—— Route Hに入ってよかった点は何ですか。

米国出願に関してわからないことがあると、その都度、講師やスタッフの方が一対一で相談に乗ってくださり、自分が必要としている情報を下さいました。苦勞したエッセイについては、講師の先生方からのアドバイスのお蔭で、悩みから解放されたことが幾度もありました。

—— 後輩へのメッセージをお願いします。

悩んでいる時間があつたら、とにかく行動してみてください。誰かと話すだけでも新しい発見があつたり、さらなる出逢いにつながります。受験は一度だけかもしれませんが、受験を通して得た経験や友人は一生ものだと思っています。

補足コメント (Route H責任者・尾澤)

私がS.H.さんについて特に評価している課外活動について補足します。彼は中3時にRoute Hが協力する海外プログラムに参加しましたが、その参加者の多くは高校生でした。恐らくその時は大変だったと思います。しかし彼は、高校進学後、学内外の様々な活動で成果を出し、高3時は課外活動歴も豊富でした。しかし、活動の履歴を見て、日本の地方での活動が少ないと感じ、東日本大震災の被災地(宮城)訪問を勧めたところ、早速、現地を訪問し複数の貴重な経験をしてくれています。思い切って行動することの大切さを参考にしていただければと思います。

# VOICE

Route Hで合格した先輩の声

## Yale, UCLA & 東大理科I類

### 海外大進学準備に出遅れながらも 短期集中で早期合格と日米合格を達成

清水悠行さん

開成高校卒

合格校 ▶ イェール大学 /  
UCLA /  
東京大学理科I類

進学先 ▶ イェール大学

### 高3・4月からの本格準備。 「情熱」と「短期集中」で「軸」を見つける

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

高1のときに米国の高校に1年間交換留学機会があり、そこで海外大進学という選択肢を知りました。本格的に考え始めたのは日本への帰国直後、塾の模試で目が飛び出るほどの点数を叩き出したのがきっかけでした。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

高2の時期は日本の受験勉強、高3に入ってから海外大の準備に時間を割いていました。そのため、高3の初めの段階では自分が何を専攻したいかもわかっておらず、当然願書の中核となりうる課外活動もなく、かなり遅めのスタートを切りました。4月から色々

な分野の活動に参加し始め、最終的に自分の専攻並びに課外活動の軸としてビジネスの分野を定めることができたのが8月。結局、課外活動は12月の受験期そのまま継続し今に至っており、近づくリミッターに焦る自分を抑えて自分の情熱を探し続けて本当に良かったと今となっては思っています。

### 「これだけは伝えたい」という自分の一面探し× 「多彩な表現で伝える」を意識

—— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

SATのスコアメイクングでとにかく苦戦しました。他のテスト(TOEFLなど)のように過去問を解くだけではうまく感覚が掴めず、最終的にはSATの理論的な部分(eg. 出題者の意図を汲み取る云々)を勉強して受験しました。最終的なスコアは高3の10月、4回目の受験で1520点を取り、出願しました。エッセイに精力的に取り組まねばならない高3の2学期に、テストメイクングの作業が残っているのはかなりストレスになります。可能な限り早く片付けることを強くお勧めします。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

様々な切り口から見える自分の価値観、性格、その他自身のイデオロギーを構成する要素を熟知した上で、それをAOの印象に残るように伝えることです。具体的には、第一に過去の経験や自分の価値観などの分析を通してAOに「これだけは知ってもらいたい!!」という自分の一面を見つけること、第二にそれらを多彩な表現を交えながら伝えるという2つのステップがあります。自分が今どちらのフェーズにいるのかを常に意識することを心がけました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

エッセイ指導です。今見返すと恥ずかしくなるような初期のエッセイから大学に出せるレベルのエッセイを書けるまでに成長するには、エッセイを書いたその場、ひいてはアイデア出しの段階から良質のフィードバックを貰える環境が用意されていたことが一番大きかったです。この環境を「使い倒せる」唯一の塾、Route Hで、大学入学前にエッセイの書き方を身に付けることができたのは非常に幸運だと感じています。



### Brown, Northwestern & Williams

#### 活動からエッセイまで高いレベルでの両立に 苦勞するも、Route H初のブラウン大生に

西澤大志さん

開成高校卒

合格校▶ ブラウン大学／  
ノースウェスタン大学／  
ウィリアムズ大学

進学先▶ ブラウン大学

#### エッセイは唯一自分の言葉でアピールできる機会

##### —— 海外進学を考えたいきっかけは何ですか？

小3から中2までの約5年間を米国NY州の郊外で過ごしたため、幸いにも早い段階から海外大進学が選択肢として身近にありました。また、高校進学後は留学系のイベントなどを通じて海外大、とりわけ名門米国大の魅力をより深く知り、自分が大学に求める環境と一致していると実感し、出願準備へと舵を切りました。

##### —— 進学準備はどのように進めましたか？

TOEFL®は高3の6月に受験し、SAT®は高3の春と夏に受験しました。TOEFL®は難なく目標点数に到達できたのですが、SAT®には予想以上に時間と労力を費やすことになりました。一方でSUBJECTテストは、学校の授業内容で対応可能なMath IIとPhysicsを選んだため、さほど対策に時間を割かずに終えることができました。エッセイに関しては、

高3の夏まで課外活動に相当打ち込んでいたこともあり、夏休みの期間は主に自己分析に励み、執筆に本腰を入れたのは秋頃からとなりました。無論、もっと早くから書き始めることに越したことはありませんが、エッセイはアプリケーションの中で唯一自分の言葉で入学審査官にアピールできる機会です。このため、本格的に執筆に取り掛かる前にまず今までの自分と向き合って分析する事が重要と思いました。これが功を奏し、11月以降はエッセイも滞りなく進めることができ、より深い内容を伝えることができたと思います。

#### 大会参加と課外活動は、興味のあることから始め、 後半は絞り込む

##### —— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

進学準備では、何よりも課外活動、学校の成績、テスト対策、エッセイなどを限られた時間の中で満足のいくレベルで両立させることに苦勞しました。また、Route Hの先輩方や仲間と比べてこれと言った特筆できる強みを持っていなかったため、受賞歴・課外活動に関しては、先ずは手当たり次第面白そうな大会や活動に取り組むことから始め、そうした中で次第に興味分野が確立されていくにつれ、活動を絞るようにしました。

##### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

「受かりそうな自分」を売り込むことより、「素の自分」を大学に伝えられるように心がけました。とりわけエッセイ執筆の初期段階では、華やかな題材に走りがちでした。しかし、次第にパーソナルな内容を伝えることに重きを置くにつれ、日頃自分が当たり前としている習慣や癖など、一見些細と思われる側面に目を向けるようにしたことによって、個性を最大限に引き出すことができたと思います。そして遂に合格を頂いた時は、素の自分が評価されたことに感謝の念を持つと同時に、今後の4年間に自信を持つことができました。

##### —— Route Hに入ってよかった点は？

Route Hはただ志望校への合格を目指すだけでなく、海外へ羽ばたく日本の代表として生徒一人ひとりが自己研鑽する独特な環境を提供してくれる「塾」であり、毎年の合格実績はこの生徒、講師、スタッフの方々による根強い信頼感とマインドセットの賜物だと実感しています。心身ともに試される時期に、鼓舞し合い共に高みを目指す心強い仲間、そして日夜伴走して下さった講師・スタッフの方々には感謝してもきれません。

# VOICE

Route Hで合格した先輩の声

## U Chicago, U Penn & UC Berkeley

### 順調な準備の中、専攻希望分野選びは苦勞するも IVYリーグと肩を並べるシカゴ大に合格

田村多真美さん

渋谷教育学園幕張高等学校卒

合格校 ▶ シカゴ大学 /  
ペンシルバニア大学 /  
カリフォルニア大学バークレー校

進学先 ▶ シカゴ大学

### エッセイは9月に開始するも、短期間で完成度UP

—— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

4歳から12歳のときにアメリカに住んでいて、自由な自己表現のできる環境が自分に合っていると感じました。また、米国大学の特徴の一つであるリベラルアーツに魅せられ、大学ではリベラルアーツ教育に基づき、幅広く学びたいと思いました。

—— 進学準備はどのように進めましたか？

私の学校では成績が相対評価でつけられるので、中学生のころから学校の成績を意識していました。成績が落ちないように真剣に授業を聞き、定期テスト対策に取り組んでいました。SAT®本試験は高2のときに受験しました。当初は2回受験し、より高い点数を目指

す予定だったのですが、2回目の受験中に体調を崩してしまい、テスト後にスコアをキャンセルしました。SATのSubject Testは高3の時に、学校の定期テストの勉強と両立できるようにスケジュールを組んで受験しました。課外活動では、ラクロスや模擬国連、ディベートに力を入れていました。エッセイを書き始めたのは高3の9月です。Route Hの仲間と比べて遅いスタートだったのでかなり焦りました。しかし、9月末にはCommon Appで書きたいことが徐々に固まり、10月のEarly出願時には自信を持つことが出来ました。

### エッセイ間の重複を精査し、違う色を出す工夫に注力

—— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

大学で専攻する学問分野を決めることです。リベラルアーツと言っても、最終的に専攻を決める際には定められた授業を履修していなければなりませんし、大学が各分野で異なるプログラムを設置していれば、入学時点で専攻がある程度決まっていなければなりません。進学準備を行う際に、これからの4年間、熱心に取り組みたいと思うアカデミックな活動を多方面にわたる自分の経験・興味に基づき、一つに絞ることがとても難しかったです。

—— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の多様な側面を表すことを心掛けました。私は興味・関心が分散しているため、一つの断片のみを取り出し提示してしまうと、とても薄い人として捉えられかねませんでした。なので、似ている、及び重複する内容がないかを念入りに確認し、エッセイごとに違う色を表現するようにしていました。

—— Route Hに入ってよかった点は？

同じ目標を持った仲間に出会えた点です。海外大を目指すことは日本ではまだ少数派ですが、Route Hにいる全員が海外大進学を夢として掲げています。学校での友人の多くが国内大学の受験勉強で明け暮れている中、自分だけエッセイを書いていると心寂しく、将来を不安に思うことがありました。だが、私はRoute Hで自信と仲間を見つけました。

## Washington, Wellesley & Duke

### エッセイでは苦勞するも、活動では高い成果を出し 総合大とリベラルアーツ大の名門に合格

頓所凜花さん

渋谷教育学園幕張高校卒

合格校 ▶ ワシントン大学 /  
ウェルズリー大学 /  
デューク大学

進学先 ▶ ワシントン大学

### 模擬国連で世界大会・米国大での研究など、 課外活動に注力

#### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

小学生の時にアメリカのボストンに7年ほど住んでいて、またアメリカに戻りたいと思ったことがきっかけです。アメリカで免疫学を研究しているラボでインターンシップを行なった経験や、模擬国連の世界大会に参加したことを通して海外大学に進学したいという意思が固まりました。

#### —— 進学準備はどのように進めましたか？

中学3年生から高校3年間を通して、コンスタントに力を入れていたのは課外活動です。模擬国連や研究などは自分が好きなことであって、受験に役立ったであろう受賞歴など

は結果でしかないと思っています。SAT®・ACT®やTOEFL®に関しては、決まった期間を決めて、集中的に勉強をしてました。夏休みを利用して集中的に勉強すれば、ちょうど9、10月のテストにも間に合いますし、学校の勉強との両立も可能になります。エッセイはもう少し早く始めていたら、と今になって思います。私は結構考え過ぎてしまうタイプなので、完璧を求めていたらなにも進まず、思い通りのエッセイがなかなか書けませんでした。

### エッセイでは「大学にどう貢献できるか」をアピール

#### —— 進学準備を進めるうえで苦勞されたことは？

エッセイが一番大変でした。自分に自信がない上、上記でも述べた通りうまく手を抜くのが苦手なので、途中成果がわかりにくいプロセスには悩まされました。アドバイスとしては、とにかく書いて先生のアドバイスを受けることだと思います。私は自分のエッセイに納得がいきませんでした。Route Hで過ごした時間はとても有意義でした。友達とエッセイについて語り合うことで、視野も広がりましたし、自己認識が深まりました。

#### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

自分の強みをできるだけアピールすることです。もし自分がこの大学の生徒だったら、と仮定して、その大学に貢献できそうなポイントをアピールしました。人間味を出すために、humorもできるだけ入れようと思いました。

#### —— Route Hに入ってよかった点は？

Route Hは受験を目的とした塾ですが、それだけではなく人間として成長できる場でした。エッセイの指導は何人もネイティブの方に見ていただけるので、いろいろな視点からアドバイスを受けました。スタッフや卒業生の先輩方もメンタル面でサポートしてくれて、助かりました。同輩とはとても仲良くなりました。とても感謝しています。

## Columbia, Duke & Johns Hopkins

### 高校時代の国内大での研究も奏功し コロンビア大・工学部に合格

李為達さん

聖光学院高校卒

**合格校**▶ コロンビア大学/  
デューク大学/  
ジョンズホップキンス大学

**進学先**▶ コロンビア大学

### 課外活動のお手本のような大学での研究

#### —— 海外進学を考えたきっかけは何ですか？

対話システムの研究を始めた高校1年時に自分に最も適する進路を考慮して決めました。大学で研究を促進するためにはコンピュータサイエンスや数学だけでなく脳科学・心理学などといった幅広い分野を身につける必要性を実感しましたが、日本の大学では学部生が研究に励むのは難しい上に教養学部の授業範囲が望むものとは少々異なりました。そこで、学部時代から研究に時間をかけられて自分の学習分野を自分で決められる米国大学への進学を考えました。

#### —— 進学準備はどのように進めましたか？

#### テスト対策

TOEFL®とSAT®IIは対策本を購入して進めました。TOEFL®は運良く早々と望ましい点が取れましたがSAT®IIは高三の春に受けて終わらせることができました。SAT®II(サブジェクトテスト)は物理と数学IIを選択しましたが、この二科目は学校の勉強を重ねていれば大丈夫だと思います。

#### 課外活動

力を入れた課外活動は大きく二つあります。

一つは二年間ほど大学の研究室で機械学習の分野の研究です。中学時代に人間のように会話ができるAIに興味を持ち、高1の頃にうまくいきそうなアイデアを用いていくつかの大学の教授にメールで打診したらある教授が受け入れてくれました。そこから研究を続けながら研究室単位で大学ロボコンに参加して自然言語をロボットのコマンドに変換する機械学習モデルの開発など様々な学びの場を通りながら高2の終盤頃に人工知能全国大会(JSAI)という日本最大規模のAI学会で史上最年少論文受諾者として論文発表をしました。二つ目はアメリカの高校生向け国際ロボコン(FRC)に参加する日本チームの代表を務めたことでした。他チームは高校の部活などで活動している一方、ただモノづくり好きな高校生が集まった僕たちは資金やリソースなどが殆どありませんでした。そこで、コネクションを駆使してクラウドファンディングや企業訪問を通して300万円集め、みんなで一人前のチームに築き上げました。また、日本在住のFRCアラムナイを集めてアラムナイ会を結成したり、子供に電子工作を教えたりMaker Faireという展示会などでブースと立てるなどといった活動もしました。

アプリケーションはバランスがある方が好ましいかもしれませんが、ただ好きで課外活動に取り組んでいたこともありアプリケーション自体はかなり偏りがありました。

#### 受賞歴

受賞歴も理系ばかりでした。大学ロボコンの他、パソコン甲子園(競技プログラミング大会)、宇宙開発系の大会などの成績を書きました。また、取得した奨学金も書けるので、賞の代わりに江副リクルート記念財団の奨学金をあわせて五つ書きました。

### エッセイでは「自分ユニーク」や「ユーモア」も見せる

#### —— 進学準備を進めるうえで苦労されたことは？

エッセイ執筆の他に、実は国籍関連のことでとりわけ苦労しました。

僕は中国国籍としてアプリケーションを提出しましたが、近年米国では中国人留学生の取り扱いがかなり厳しくなりつつあり、院生だけでなく学部生にも影響が出るようになったのはここ数年のことです。昨年度・今年も米国外に在住しインターナショナルスクールに通わない中国人学生のトップ大学の合格者数は例年と比べて大きく落ちており(後期受験ではいわゆる「HYPSM」の五校は合格者わずか数名、前期は0人の大学もあります)、今後更にも厳しくなると予想されています。一般的に競争率が激しい分野として航空宇宙工学やコンピュータサイエンスなどが知られていますが、今後は機密情報に関わるということでAE・CS(Aerospace Engineering, Computer Science 専攻は避けなければいけないといわれている現実を高三の終盤に知り、かなりの衝撃を受けました。自分ではコントロールが効かないラベルによって受験結果が左右されることを覚悟しながら前に進むのは正直のところ非常に苦しく受け入れ難いことでした。

#### —— 願書全般で心がけた点を教えてください。

受験期に先輩方の話を伺って学んだことですが、いかに「自分」をアプリケーションで表現できるかがポイントだと実感しました。「自分しか持っていないものは何か?」という問いに対する答えをブレインストーミングして個性が強く出るアプリケーションになるように心がけました。また、ジョークなどをはさんだりして読者に面白いと思われるような書き方を意識したエッセイも書きました。

#### —— Route Hでよかった点は何ですか?

エッセイのフィードバックの速さや、比類なき生徒一人一人への対応の厚さだけでなく、大学に入ってからのことを考慮して、生徒が良い英文の書き方を身につけられるような指導方法がRoute Hの突出する部分だと思います。直前期になると、講師・スタッフの方々も徹夜で付き合ってください、Route H生が提出したエッセイを、ほんの数時間後にハイクオリティな形でフィードバックをしてくださるだけでなく、直前期でないときも、大抵提出した次の日にフィードバックが返ってくるのが殆どで、おかげさまでライティング力が上達していく成長も実感できました。

## 2020年度に米国トップ大に 進学した Route H 生

進学先	氏名
Harvard	菊田真理
Harvard	S. H.
Yale	清水悠行
Yale	T. K.
Princeton	櫻村樹理亜
Stanford	黄 允珠
Brown	西澤大志
Columbia	李 為達
Columbia	谷口友哉
U Penn	平沼昌太郎
U Chicago	田村多真美
Johns Hopkins	関口愛未
U Washington	頓所凜花
Wellesley	石川満留

※氏名は敬称略。イニシャル表記は氏名非公表の生徒。

※柳井正財団奨学生は10名、江副財団奨学生2名、重田奨学金財団生1名となります。

※なお、2019年度以前のRoute H生の合格体験談については、Route Hの海外トップ大情報誌Route Book 2020に記載。



# 新型コロナの米国トップ大受験、大学生活への影響について

2020年の米国トップ大入試においては、コロナ禍の影響により、大学やSAT®等を実施するCollege Board等が、受験生に対し、様々な対応を行った。また、在校生に対しても同様である。2021年についても、コロナ禍の状況次第ではあるが、これまでの動きについて整理をしておきたい。

## 受験生への対応について

### ★SAT®等のテストスコアがなくても、出願可能に

上述通り、コロナ禍で、SAT®等を会場で受験できなくなったため(特に2020年3月~6月)、SAT®等のテストスコアがなくても、出願可能との方針を採った大学が多い。この影響が、コロナ禍以前よりも出願者増により、合格率が低下した大学が散見される。(2020年早期出願での出願者大幅増・合格率低下の例:ハーバード:合格率が14%から7.4%に低下。MIT:合格率が8%から4.8%に低下。)ただし、2020年8月からSATも会場受験を再開しているので、2021年のSAT受験に関するCollege Boardや各大学の対応を見守りたい。

★SAT®中止(2020年3~6月)の代替として、従来international studentsには機会がなかった8月・9月(2020年)にSATが実施。

### ★共通願書に、コロナの自分への影響を

記載できる欄が追加

コロナ禍で、上述のテストだけでなく、課外活動が十分にできなくなった生徒や、参加予定の大会が中止になった例は多い。よって、この欄で、補足ができるようになった。

※なお、2021年1月に、College Boardが、SAT® Subject Testや、Reasoning TestのEssayの廃止を表明した(留学生は6月までは受験できる)。これに伴い、大学側が、テストスコアの評価をどうするのかウォッチしておきたい。

## 大学生活への影響について

大学により対応が異なった部分はあるが、昨年見られた大学の対応(在校生への主な影響)は以下の通りである。

### ★多くの授業がオンラインに変更

日本の大学でも同様であるが、多くの授業がオンラインに変更となった。ただし、一部、教室の授業が行われたクラスもある。

### ★日本に残るか、渡米かは選択制に

これも大学により対応が分かれるが、international students(留学生)に対しては、母国に帰国するか、現地に滞在するかを選択させた大学が散見される。ただし、強制的に、新生入生は、新学期(秋)は、原則、母国に滞在し、2021年の春学期は、母国滞在中か米国滞在を選択させている例が多い。

### ★成績評価の変更

成績評価についても、コロナ禍以前は、5段階評価(ABCD)F)をしていたが、2020年の春学期以降は、それをやめ、Pass or Fail評価にした大学も散見される(2020年秋学期からは5段階評価に戻した大学もある)。このPass or Fail評価への変更については、「コロナ禍の影響で、授業にフルコミットできないので、妥当

な判断だと思う」という声が多いが、一方で「頑張ってAを取る必要がなくなったので、ややモチベーションが下がった」という声も聞かれる。

### ★自国でオンライン授業を受けるデメリット

(※Route H卒業生の声等から)

- 大学側が、母国でオンライン授業を受ける留学生に対し、時差に配慮し、録画した授業を生徒の都合のよい時間に聞いてよいという対応が多く見られたものの、一部は、(日本時間)未明~早朝に聴講要の授業もあり、深夜から未明に起きておく必要があり、慣れるまで時間がかかった。
- 教授やティーチング・アシスタント(TA)のほうで、生徒の質問に柔軟に対応してくれた場合も多いが、やはり、これも時差の関係で、対面で直接アドバイスをくれる機会はやや減った。
- 課外活動等が十分にできない。

### ★自国で授業を受けるメリット

- 上述通り、大学側が時差への配慮として現地時間ではなく、自分の都合に合わせて録画した授業を視聴してよいというクラスも多かったため、住み慣れた母国で生活できるという点である。
- 日本でしかできない研究・活動に取り組めた。※日本の大学で研究をしている生徒も散見される。



**徹底的な  
ライティング指導のおかげで、  
説得力のあるエッセイを  
書けるように！**



### デポー大学 (アメリカ) 進学

原田 雄生 さん

- 受験タイプ 海外大 併願  
合格校 DePauw University (デポー大学) / Lawrence University / Knox College / Kalamazoo College / Lake Forest College / Ohio Wesleyan University / Bennington College / Wartburg College
- 受講クラス ● TOEFL iBT® Test対策 Class Master  
● SAT®対策 Class  
● 海外大学出願パック

#### 受講のきっかけ

実は、国内大学に行き、その後、大学院で海外留学をしようと思っていました。高校1年の10月に進路相談をした際、担任の先生から「日本の大学を選ばなくてもいい」と言われ、高1の1月には独学で準備をし始めましたが、秋田県に住んでいたため海外進学の方法など情報収集に苦労しました。転機は、高2の5月に海外進学相談会に行ったことです。そこでGlobal Learning Centerを知りました。オンラインで受講できるため、秋田にいながらTOEFL iBT®テストやSAT®の対策や出願アドバイスを受けられるのが魅力だと思い受講を決めました。

#### 受講して感じた魅力

GLCを通して日本全国に高い志を持った友人ができたことはすごく良かった点です。授業外でも進路について相談しあうなど、お互いに切磋琢磨して出願準備を進められました。他の受講生の将来のビジョンや課外活動の大きさに鼓舞されて、「自分も負けていけない」と努力し続けることができたと思っています。

**受け身ではなく  
常にアクティブな姿勢が  
求められる  
GLCの授業で実力アップ！**



### ハバフォード大学 (アメリカ) 進学

中谷 海渡 さん

- 受験タイプ 国内・海外大 併願  
合格校 Haverford College (ハバフォード大学) / 東京大学 / Colby College / Grinnell College / Carleton College / Vanderbilt University (東京大学理科II類に入学後、ハバフォード大学へ)
- 受講クラス ● TOEFL iBT® Test対策 Class Intermediate  
● SAT®対策 Class  
● Academic Writing Plus

#### 受講のきっかけ

留学に興味を持ったのは高2の4月。最初は単なる海外への憧れみたいなものでしたが、文理選択の際に自分の将来を考えてすごく迷い、専攻も決められなかったのが海外のリベラルアーツカレッジを考え始めたきっかけになりました。受験準備を始めて、TOEFL iBT®テストの対策方法を探していたときにWebで見つけたのがGlobal Learning Centerでした。オンラインの講座であること、週1回のペースで進められること、自宅で夜に受けられること、などが受講の決め手になりました。

#### 受講して感じた魅力

GLCでは、受け身ではなく常にアクティブに授業を受けることが求められました。質問にただ答えるだけでなく、毎回自分がなぜその答えを選んだのかを説明することで、着実に力がついていきました。また、海外大学に実際に出願するまで、様々なサポートを受けられることがGLCの大きな魅力だと思います。出願のノウハウなどを持っているGLCはすごく頼りになる存在でした。

**個人の弱みに沿った  
的確なティーチング。  
GLCでの学びが  
大学でも役立った！**



### ウェズリアン大学 (アメリカ) 進学

羽鳥 静華 さん

- 受験タイプ 国内・海外大 併願  
合格校 Wesleyan University (ウェズリアン大学) / Georgetown University / Lake Forest College / 東京外国語大学
- 受講クラス ● TOEFL iBT® Test対策 Class Master  
● SAT®対策 Class  
● 海外大講義対策 Class

#### 受講のきっかけ

きっかけは2つ。1つは英語ディベートの全国大会で3位に終わり、国際大会への参加機会を逃してしまったことです。もう1つは、アメリカの大学でやるようなアウトプット中心の英語に関する授業があり、その授業が大好きだったことです。通っていた高校の英語のカリキュラムを監修していた大学の教授に、「海外に行きたい」と相談したところ、海外に直接進学する方法について教えてくださいました。その際にベネッセのGlobal Learning Centerも紹介していただいたので、受講を決めました。

#### 受講して感じた魅力

GLCの授業は少人数なので、先生方が各々の弱点を理解し、それに沿ったティーチングをしてくれる点がとても良かったです。毎回の質問が個人の弱みの克服につながるようなものになっており、授業ごとの学びがとても大きかったですね。たとえばSAT®のエッセイの講座で身につけたエッセイの書き方や、自分での読み直し方などは、大学でもとても役に立ちました。

## シリコンバレーの 起業家たちに 刺激を受け米国大への 進学を決意

柳井正財団奨学生



## 宇宙工学への強い興味を 満たしてくれる環境を求め 米国大へ行きついた



## 将来の夢実現のために アメリカの リベラルアーツ・ カレッジを選択

JASSO学部学位取得型奨学金生



## プリンストン大、コロンビア大、ペンシルベニア大/ 東京大学文科二類に合格

中山 隆輝先輩 (聖光学院中学校高等学校出身)

一海外大進学を考えはじめたきっかけを教えてください。

私が海外大進学を意識し始めたのは、中3で学校のシリコンバレー研修に参加し、現地の起業家と交流したことがきっかけです。それまでは、なんとなく東大に行って官僚になるんだろうと考えていました。シリコンバレーの人々に衝撃を受けて進路を考えなおすようになりました。経済学と統計学に興味を持っていて、文系・理系問わず自分の勉強したいことを追究できるのも海外大の魅力でした。その後、アメリカの大学をいくつか訪問し、キャンパスの美しさや学習環境にも魅了され海外大への出願を決意しました。

一進学準備はどのように進めましたか？

高1から本格的にTOEFL対策を始めました。海外大併願コースのTOEFL対策講座に通い始め、TOEFL® 115点を取ることができましたので、高2からはSAT®対策講座に切り替えました。当時は、そもそもSAT®がどのような試験なのか全く知りませんでした。SAT®対策講座では出題者が受験者のどのような力を試そうとしているのかを教えてください、各設問で問われていることが分かるようになりました。また、クラスの中で、解答にたどり着くロジックを常に説明することを求められました。SAT®では4択のうち2択までの絞り込みは比較的容易にできますが、そこから正解にたどり着くためのロジックを明確に持つ必要があります、その力が授業で身につきました。そのおかげで、最終的には1550点(1600点満点)までSAT®のスコアを伸ばすことができました。

一高校時代、どのような活動に力を入れていましたか？

自分でディベート部を立ち上げてディベートの国際大会に出場をし、その大会では日本人として初めての入賞を果たすことができました。また、この活動を後輩たちにつなぐことができたことも大きな成果でした。そのほか、石巻や横浜市議会でインターンなどの活動、ハイスクール漫才にも参加しました。柳井正財団奨学金の最終面接のときにも、どうしたら柳井さんにも楽しい時間を過ごしてもらえるかを考えながら面接にのぞいていました。

一後輩へのメッセージをお願いします。

海外大出願は情報戦です。自分自身の情報を築き上げることが大切です。Route Hや海外大併願コースで得られる情報に加え、大学の様子を知るために卒業生たちとのネットワークを作る、アドミッションと話す機会となる留学EXPOに参加するなど、自ら能動的に動く必要があります。また、高3になると、エッセイ執筆や国内の併願など多くのことをこなさなければいけなくなりますので、自分を追い込んで早く準備を進めることをお勧めします。

## ジョージア工科大、パデュー大、イリノイ大、ミシガン大/ 東京大学理科一類に合格

田久保 勇志先輩 (筑波大学附属駒場中・高等学校出身)

一海外大進学を考え始めたきっかけを教えてください。

きっかけはよく覚えていませんが、物心がついた時から宇宙に興味があって、幼稚園の卒園アルバムにも将来は宇宙飛行士になると書いてありました。中1の頃から米国大へ行くこと決めていました。理由は自分が勉強したい宇宙工学では、圧倒的に世界トップだからです。もちろん東大でも宇宙工学を学ぶことができますが、米国大はそれに比べ予算規模が圧倒的に違うレベル感ですし、質の高い研究もでき、NASAもある。宇宙開発をやりたい人間にとっては米国大だと思います。その中でも宇宙工学においてトップレベルのジョージア工科大から合格をもらったので進学することに決めました。

一進学準備はどのように進めましたか？

中1からお茶の水ゼミナールに入会し、Junior Master Classから始めました。一般的な中1レベルの英語塾ではなく、より高いレベルの授業を受けたくてお茶ゼミを選びました。自分も英語は出来るほうだと思っていましたが、英語力で勝てない仲間との出会いがあり、海外大出願までずっと良きライバルとなりました。高校生になってからは、海外大併願コースのTOEFL®対策講座を受講しました。TOEFL® iBTは中3で初めて受験して67点でしたが、高校2年の時に107点までスコアが伸びました。高1の時に出場したWorld Scholar's CupでRoute Hのことを知って、面談をしてもらいTOEFL®とSAT®をまずは頑張るようにアドバイスをもらいました。最終的には高3の夏からRoute Hに入塾し、エッセイの執筆を開始しました。

一高校時代、どのような活動に力を入れていましたか？

自分は中学の頃から海外大に行きたいという気持ちがあったのももちろん課外活動や受賞歴に力を入れなくてはいけませんでしたが、実績稼ぎのための活動はやりたくない、好きじゃないことはやりたくないというポリシーで活動をしていました。校内の活動としては、バスケットと文化祭を全力でやりました。また、中3の頃から大学生のロケットサークルでロケット作りをしたり、人工衛星の設計コンテストで論文を書いて賞をもらったり、ベンチャー企業でロケット製造のお手伝いをさせてもらったり、大好きな宇宙に関する活動をしているつもりでした。

一後輩へのメッセージをお願いします。

日本の大学の学費と比較すると米国大の学費は何倍も高いです。その学費を払ってでも得たいものが自分にあるか、それをしっかりと考える必要があると思っています。答えがYesなのであれば、必死で頑張ってください米国大を目指すべきだと思います。

## デポー大、ノックス大、レイクフォレスト大、ホリズ大/ 国際基督教大学に合格

古旗 笑佳先輩 (都立白鷗高校出身)

一海外大進学を考えはじめたきっかけを教えてください。

東京都次世代リーダー育成道場の研修生として高1のときに10か月間アメリカへ留学しました。この時にアメリカのメンタリティに触れ、リスクを恐れず自分のやりたいことにチャレンジすることの大切さを学びました。帰国後に、海外大生と交流する機会があり、海外大進学に興味を芽生え始めチャレンジをしてみようと思いました。私は教育に興味を持っていて、発達心理学を学びたいと思っていますが、同時に各国の教育制度やその背景にある文化や歴史など幅広い分野を学びたく、教育というテーマに様々な学問分野からアプローチができるリベラルアーツ・カレッジを志望するようになりました。

一進学準備はどのように進めましたか？

高3の5月時点でTOEFL®のスコアが70点でした。海外大併願コースでTOEFL®対策講座を受講し、約半年間でTOEFL®のスコアが95点まで上がりました。特に参考になったのはWritingで、もちろん参考書を読めば、書くべき文章構造を把握することはできます。ただ、より高いスコアを獲得するために、具体的にどの箇所を例示などで補足しなければいけないのかなど指導してもらいました。そして、自分が書いた文章に何度もネイティブ講師からフィードバックをもらう事で、よりよいエッセイを書けるようになりました。また、授業の中ではListeningやReadingのマテリアルについて、クラスメイトに1分間で要約して伝える訓練をしてきました。マテリアルの主題や詳細を理解する訓練になるとともに、Speakingセクションのスコアアップにもつながりました。

一日本米の併願について教えてください。

私はリベラル・アーツカレッジに行きたくなかったので、国内も国際基督教大学を第一志望として一般受験をしました。高校の勉強をきちんとやっていたことにより、アメリカの大学へ提出するGPAも良い成績を出すことが出来ましたし、センター試験についても学校の勉強を基本として対応できました。アメリカの出願を12月中に終わらせてからは国内の入試に集中しました。TOEFL®の勉強でListeningが鍛えられていたので、国内入試でも英語は大きなアドバンテージになりました。

一お茶の水ゼミナールに通った点を教えてください。  
TOEFL®やSAT®の対策はもちろんですが、海外大出願に精通したカウンセラーがサポートしてくれたことがとてもありがたかったです。志望校選びから出願書類の添削までアドバイスをくれました。奨学金についても申請すべき奨学金制度の提案や面接の練習などサポートをしてもらいました。国内の第一志望大にも合格し、進学先を悩んだ時にも相談に乗ってもらいました。

## 「Route Hグループ」とは？

日本の高校から11年連続ハーバード大、イェール大に合格者を出し続けている日本で唯一の進学塾。出願対策×英語テスト対策に加え、各種イベントやコミュニティからの情報提供で日本の中高生のグローバル進路実現をサポートします。

### 「Route Hグループ」の3つのサービス



Route H

海外トップ大進学塾



GLOBAL  
LEARNING  
CENTER

Route Hがプロデュース  
オンライン英語講座  
&  
出願サービス

オンライン

Benesse お茶の水ゼミナール  
海外大併願コース

アッス教育企画

英語館

Route Hがプロデュース  
教室型英語講座

教室

中学生

### アカデミック英語対策講座を受講する。

全国からオンラインで受講する ⇒ Global Learning Center  
都内で教室にて受講する ⇒ お茶の水ゼミナール海外大併願コース  
関西で教室にて受講する ⇒ アップ英語館

話す・書く・聞く・読むという英語4技能を鍛え、「英会話力」ではなく、海外で勉強する際に必要となる「アカデミック英語力」の基礎を徹底的に身につける。

お茶の水ゼミナール特設

Junior Master Class

アップ教育企画英語館特設

ULFE [アルフィ] Junior / ULFE [アルフィ]

高校1年生・高校2年生

高校3年生

Route Hが主催・共催・協賛する  
各種イベントに参加する。  
海外進学カウンセリングを受ける。

Route H特講、Essay対策指導を受ける。

**TOEFL iBT® Test/SAT® 対策講座を受講する。**

全国からオンラインで受講する ⇒ Global Learning Center  
都内で教室にて受講する ⇒ お茶の水ゼミナール海外大併願コース  
関西で教室にて受講する ⇒ アップ英語館Goal Orientation Module  
海外大学や国内のグローバル系大学の受験に必要なTOEFL iBTやSATの対策講座を受講し、早い段階で目標スコアをクリアし、出願の準備を開始する。

**出願サービスを利用する。**

海外大志望  
⇒ 海外大進学出願パック  
国内大志望  
⇒ 総合型選抜対策プログラム

## Challenge Yourself !

### 終わりのなき挑戦が道を開く

どんなに学力に秀でていても、優れた表現力を持たなければ世界トップレベルの大学に合格することはないでしょう。自分についての何を伝えるのか (What)、なぜそれが自分よりもより他者や大学にとって重要なのか (Why)、いかにしてそれを効果的に書き表すか (How)。この3つの要素をエッセイに託して強烈にアピールしてください。あなたの信念と、それに基づく小さくとも意義ある行動を書き示し、読む人に新鮮な感動を与えて新たな行動を引き起こすこと。表現力とはつまり、人を動かす力。それこそが、最高峰の大学が求めるリーダーに必須の資質ともいえるのです。

このような表現力を身につけるには、徹底した自己分析と訓練が必要です。現状に満足せず、二手も三手も先を読んで自分の考えを突き詰めていく。「Route H」はその手ほどきをする、いわば人生道場でもあります。



海外トップ大進学塾



マイケル・リンゲン  
Michael Ringen  
Route H ディレクター



## Route H特講

「自己分析力」の育成をはじめ、海外トップ大合格に向けた受験戦略を立案します。

- 自己分析力育成トレーニング
- 国内大との併願戦略プランニング
- 海外大受験（出願）戦略カウンセリング
- 保護者面談

## Essay対策指導

海外トップ大の合否を左右する「Essay」。その対策を1対1のプライベートレッスンで行います。トレーニングを通して、エッセイ作成をサポートいたします。

- Essay 対策個別指導

## SAT対策講義

コロンビア大学・英語修得メソッド（TESOL）に基づいた指導を行います。SAT の高得点を視野に入れた Reading / Writing / Essay スキルを育成します。海外大進学後の授業を意識した University study skills（Research papers, Presentations, Debates, Discussions）の習得を目指します。

## 各種イベント開催

海外大進学の情報提供や、海外トップ大に在籍するRoute H卒業生や来日する海外トップ大の学生と高校生の交流会イベントなどRoute Hならではのイベントを開催しています。

- 海外トップ大進学ガイダンス「Route H Info Session」（※地方でも開催しています）
- 海外トップ大生が語る大学生活と受験体験談
- ハーバード大生（学部生や大学院生）と高校生の交流会

※Route H特講、Essay対策指導は塾生向けのプログラムですが、その他、短期講習（SAT対策講義）や出願エッセイに関するオプションのサービス、海外大進学に関する様々なイベントもご用意しております。まずはご相談ください。

## MESSAGE



### コロナの影響で変わること、 変わらないこと

尾澤 章浩 「Route H」責任者

昨年3月末に、「Route H」から、ハーバード、イェールに11年連続、プリンストンに8年連続で、また、スタンフォードにも合格者を輩出。また、ほとんどの生徒が、柳井正財団・江副財団などの奨学生にも選ばれました。そして、2020～2021入試を経験した高校生については、高校の授業・活動、SATなどのテスト受験など、様々な面接でコロナの影響を受けたものの、この記事が出るころには、一部、よい結果も出ていると思います。

しかし、昨年からのコロナの影響で、前ページでも述べているように、入試や大学生活に様々な変更や影響が出ています。この記事の作成時点(2021年1月)では、まだ、2020～2021入試のレギュラー出願の結果は出ていないものの、今後予想される状況を述べていきたいと思います。

### 変わること

#### ★出願状況、合格率

前述のように、まだ早期出願の結果を見る限りですが、ハーバード・MITを始め、トップ大を中心に、出願者増・合格率低下が起きています。コロナの影響、大学の出願方針の変更、College BoardのSATに関する変更などを受けて、今年も出願状況に影響を受ける大学があると思います。

#### ★出願制度

昨年は、プリンストンの「早期出願」廃止がトピックの1つでした。今年も廃止のままか、復活させるのかはわかりませんが、2020-2021年入試の出願状況などを見て、プリンストンのような大きな変更をする大学がほかに出てくる可能性もあります。

#### ★課外活動・大会参加

コロナの影響で、課外活動や大会参加の機会が世界的に減ったことは前述通りです。しかし、これらの入試での評価が残る以上、場でやっていた活動をオンラインに切り替えたり、オンラインで開催される大会などへの、より積極的な参加は昨年から始まっており、今後も、この状況でどう工夫していくかの検討とアクションは必要でしょう。

### 変わらないこと

#### ★入学審査の主な項目や評価

2021年1月に発表されたSAT<sup>®</sup>のエッセイの廃止、subject testsの廃止などは、テストスコアの面では大きい変更ですが、高校の成績・課外活動歴・受賞歴・エッセイ・高校書類・インタビューなどで総合的に生徒を評価する入試自体は変わらないので、基本は各項目について、これまでと同じ戦略・努力・工夫が必要です。

#### ★米国トップ大への出願状況

早期出願の結果を見る限りですが、ハーバード、MIT等で大幅な出願者増があったように、今後もトップ大への出願者は、よほどのことがない限り減らないと思われる。

今後も、Route Hのイベント等で、最新情報の発信をしていきます。  
よろしくお祈りします。

## 4技能オンライン講座

当たり前に4技能を駆使し、考え、相手の言っていることを感じ、ネイティブに通じるようになる。

海外大学の入学審査 TOEFL iBT®Test での目標スコア獲得のために、Route H がプロデュースする4技能実践型のオンラインレッスンを行っています。4技能「読む・聞く・話す・書く」を技能 × 技能の掛け合わせで運用することで、学習効果を生んでいくメソッドです。講師や他受講生とコミュニケーションをとりながら英語力を養成し、「当たり前」に4技能を駆使し、考え、相手の言っていることを感じ、ネイティブに通じる」ことを実感してください。

### Learning Management System

パソコンやスマートフォンを利用することで、いつでもどこでも予習・復習・宿題を行うことができる専用システムです。隙間時間の活用で最大の効果を得ることが可能です。



Route Hがプロデュース

オンライン英語講座 &  
出願サービス



講師や他受講生と近況報告などを行うことでウォーミングアップ。1クラス最大8名の毎週のオンラインレッスンが、英語力向上をペースメイクします。

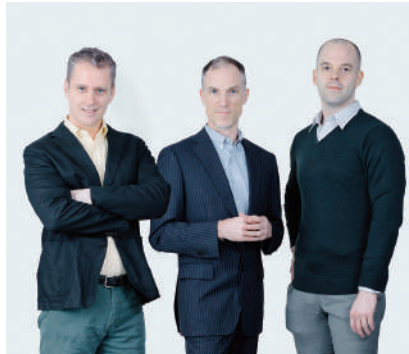


「わずか15秒で自分の意見をまとめて、短時間で回答する」というテスト本番に向けて、できる限り同じ環境で学ぶことでアウトプット力を鍛えます。

## 生徒を目標まで導くシステム

厳しい講師採用基準と継続的トレーニングを経た精鋭講師陣、  
受講生に寄り添い伴走するチューター達、  
そして英語力を正確に測るアセスメント。

応募者に占める採用率は2%以下。英語がネイティブ言語であるだけではなく、  
講師経験、教育学・言語学での教養や知識、教材開発スキルを重視して、講師を採用して  
います。また、定期的に英語力を正確に測るためのアセスメントを実施し、その結果をもと  
にチューター達が面談を実施し目標までのプロセスの明確化、最適な学習環境作りと学習  
方法のアドバイスを通じ、目標達成へ導きます。



授業の質向上に向けて、採用後にも継続的なトレーニング  
を行います。また、受講生の検定試験スコア等を検証し、適  
宜授業を改善しています。



Writingではエッセイを「受講生全員が一斉に書く」という  
場面も。書く速さや表現の巧みさなどで他受講生を目標に  
でき、刺激になります。

## 同じ志を持つ仲間からの刺激

日本全国から集うグローバル進路を志すクラスメイト達。  
生徒同士がお互いの力を発揮して協力して学ぶ。

クラスには同じ志を持った仲間が日本全  
国から集い、「一緒に考え、教え合い、学  
び合う」コミュニティを形成しています。  
この環境を最大限生かすことが英語力  
上達への近道になるとともに、課外活動  
など様々な情報交換の場となります。



## ニーズに合わせた充実のプログラム

テスト前に短時間でスコアアップを狙う受講生向けにマンツーマン特別講座。  
難関大学の総合型選抜もしくは推薦入試で合格を目指す  
高校3年生向けの対策プログラム。

普段のグループレッスンに加え、個々の課題をピンポイントで対策するために、講師と1対1で授  
業を受けられるマンツーマン特別講座をオプションで受講できます。TOEFL®やSAT®の試験  
までの残り少ない時間で最大限のスコアアップを目指されたい受講生におすすめの講座です。  
また、総合型選抜対策プログラムでは、小論文に必要な読解力・論理的思考力や、志望理由書  
で自己アピールするための表現力を養うための講座などをご用意しています。

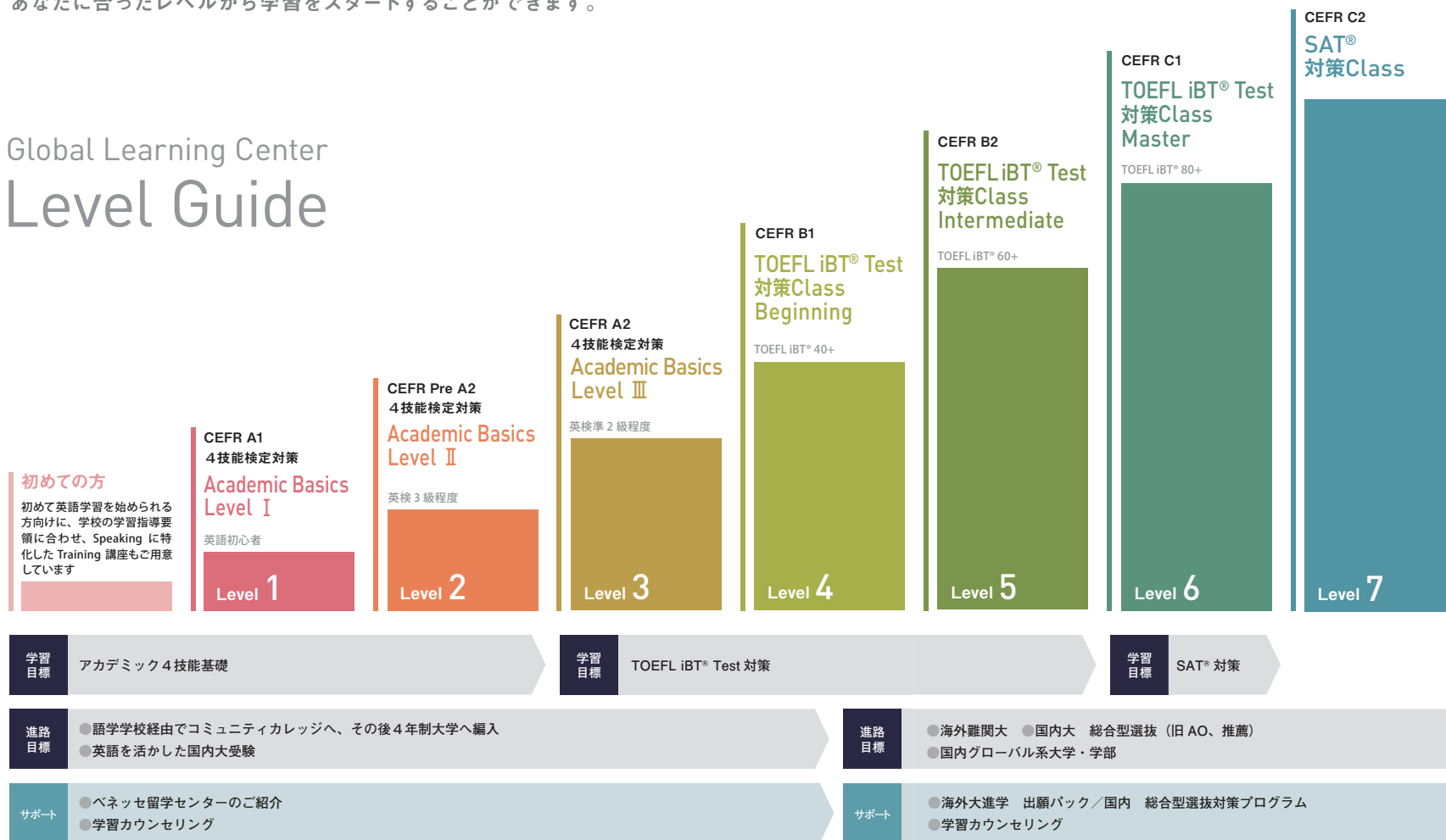
# Global Learning Center レベル表

Global Learning Center のレッスンなら

学年、学校の学習進度、受講開始時期に関係なく

あなたに合ったレベルから学習をスタートすることができます。

## Global Learning Center Level Guide



※「ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR: Common European Framework of Reference for Languages)」は、欧州評議会が定めた言語の種や国境を越えて、異なる試験を相互に比較することが出来る国際標準です。

## SAT® Test対策class

CEFR C2

120分×月4回

目標 SAT® テストでの高得点取得

対象 TOEFL iBT® Test 80 点以上、IELTS® 7.5 以上

## TOEFL iBT® Test対策class

Master Intermediate Beginning  
CEFR C1 CEFR B2 CEFR B1

120分×月4回

目標 TOEFL iBT® Test での高得点取得

対象 Master : TOEFL iBT® Test 80 点以上、IELTS® 7.0 以上  
Intermediate : TOEFL iBT® Test 60 点以上、IELTS® 6.0 以上、英検準 1 級  
Beginning : TOEFL iBT® Test 40 点以上、IELTS® 5.0 以上、英検 2 級

### 講座内容

より速く読み、正確に聞き、論理的に話し、独創的に書く。4技能すべてにおいてさらなる高みをめざす。  
TOEFL iBT® Test 対策クラスは、海外難関大や早稲田大・上智大・ICU などの国際教養学部といった、国内でも最難関のグローバル系大学・学部を目指す方々のための講座です。大学入試で TOEFL® Test スコアを活用することをめざし、テストの目標スコア取得を目的とします。「速く読む」「正確に聞く」「論理的に話す」「独創的に書く」など、英語力の高みを目指すことができ、大学入試英語だけでなく、海外留学や海外大進学に必要な使える英語 4 技能を身につけます。

アウトプットの時間を多く取ることで、英語を使いこなすためのトレーニングを行う。

語彙や文法の基礎は既に押さえているものの、それらの知識を使いこなしてアウトプットすることが苦手な受講生が少なくありません。レッスンではアウトプットの機会を多く設け、論理的思考のフレームを用いた思考と発話の練習を繰り返し行います。TOEFL iBT® Test 対策はもちろん、さらに英語 4 技能を使いこなすためのトレーニングを重ねます。

TOEFL iBT® Test対策クラスは、3つのレベル別



Master

Reading: 700 語程度、Listening: 4~5 分程度の  
パッセージを扱います。内容を瞬時に理解し、  
構造的かつ論理的にひも解いていく力を養います。  
Mastering Skills for the TOEFL iBT  
Second Edition Combined Book with  
MP3 CD / Compass Publishing



Intermediate

Reading: 500 語程度、Listening: 3~4 分程度の  
パッセージを扱います。速読力を鍛え、どんな  
内容でも対応できる応用力を磨いていきます。  
Developing Skills for the TOEFL iBT  
Second Edition Combined Book with  
MP3 CD / Compass Publishing



Beginning

Reading: 300 語程度、Listening: 2~3 分程度の  
パッセージを扱います。論理的な構造で書かれた学術  
的な文章に触れ、着実に読み、聞きとる力を身につけます。  
Building Skills for the TOEFL iBT  
Second Edition Combined Book  
with MP3 CD / Compass Publishing

### 講座内容

海外大出願に必要なSAT®のスコア取得をめざし、高度なアカデミックスキルを身につける。

SAT® Test 対策クラスは、米国大や国内難関大など、出願時に SAT® Test のスコア提出が必要な大学の合格を目指す方のための講座です。Evidence-based Reading & Writing と Essay の対策を通して、速読読解力・論理的思考力・短時間で自分の意見をまとめて書く力など、高度なアカデミックスキルを身につけます。

テクニカルな指導と正解の理由を追求するReading&Writing

テーマに対するアプローチを学ぶEssay

Evidence-based Reading & Writing では、問題形式別の答えの導き方や、素材文のどういったポイントに注目すべきかなど、テクニカルな指導を多く行います。一方で、正しい選択肢について、なぜそれが正解なのかを必ず確認し、批判的に文章を読む力を養います。Essay ではテーマに対するアプローチの仕方をプレストして候補をいくつか出し、書きやすさの観点で絞り込んでいきます。毎月1つのエッセイを仕上げることで、精度を上げていきます。

[注] 2021年1月に、エッセイ(オプション)の廃止が発表されました(※日本では2021年6月まで実施)。

## Academic Basics class (4技能検定対策クラス)

Level III Level II Level I  
CEFR A2 CEFR Pre-A2 CEFR A1  
90分×月4回 90分×月4回 60分×月4回

目標 英語 4 技能の基礎を統合的に学び、運用する力を身につける  
各種英語 4 技能検定試験のスコア取得

対象 Level III : 英検準 2 級以上 Level II : 英検 3 級以上 Level I : 英検 3 級程度

### 講座内容

Academic Englishの習得に向けて、まずはコミュニケーションな英語力を磨く。

英語でのスムーズなコミュニケーション力を身につけた方や、将来的に大学・高校受験で英語を強みにしたい方、GTEC CBT® や英検、TEAP® などの各種 4 技能検定試験の準備をしたい方のための講座です。まずは英語で読み・聞き、英語で考えることを重視して基礎を磨き、徐々に応用力の構築につなげます。

各種テストの問題形式に対応。様々な場面に対応できる英語力を養う。

Academic Basics クラスでは、Reading・Listening は TOEFL iBT® Test ベースのテキストを用いますが、Speaking・Writing では GTEC CBT® や TEAP®, IELTS® など、各種 4 技能検定試験で出題される問題形式を取り入れています。高校受験や大学受験で 4 技能検定試験を利用する方に、ぴったりの講座です。

Academic Basicsクラスは、3つのレベル別



Level III

200 語~300 語程度のパッセージを扱い、より早く読み、聞いて理解する力を磨きます。多様な問題形式に触れることで、応用力が身に着きます。

Basic Skills for the TOEFL iBT 3  
Reading Book, Listening Book  
with Audio CD / Compass Publishing



Level II

150 語~200 語程度の短いパッセージを扱いながら、内容は Level I よりぐっと学術的になり、単語の難度も上がります。知識の幅を広げ、英語のレベルを一段引き上げます。

Basic Skills for the TOEFL iBT 1  
Reading Book, Listening Book  
with Audio CD / Compass Publishing



Level I

学術的なトピックを扱いつつも、難しい単語や文法が用いられており、基礎力を養うには最適です。

Reading Jump 1  
Student Book  
with Audio CD / Compass Publishing



英語初心者の方からでも、  
始められる

「進学直結型」

# Online Speaking Training

Online Speaking Training (OST) とは、中学校から英語学習を開始した英語初心者の方や、高校受験・大学受験を見据えて無理なく無駄なく、継続的に英語学習を行いたいという方向けに設計されたオンライン英語プログラムです。

## プログラムの特徴

- 学習指導要領に沿ったカリキュラムで学校での学びを聞ける、話せる英語に!
- 目標スコア別アプリで、自分に適したレベルを、自分のペースで学習できる!
- 進路相談会・学習相談会を定期的を実施!
- 達成度テストで英語力の伸びを診断!

### ① 英語学習対策

1対1のレッスンに加え、トレーニングアプリ、効果効率・モチベーションをあげるカウンセリングでフルサポート

### ② 進路選択サポート

オンラインセミナーを通じて、国内外の進路選択に関する情報を取得することができます。

## 学習サイクル

### 1週間に90分程度の学習時間

- オンライン英会話 (25分×2回)
- トレーニングアプリ (5分×毎日)

忙しい毎日でも、オンライン英会話+アプリ学習で効率的/効果的に、英語力を積み上げていきます。

+

### 継続学習を支える毎月の学習サポート

- 学習カウンセリング (月1回)
- オンラインセミナー (月2回)
- 学習モニタリング (定期実施)
- オンライン英語テスト (各レベル・5回)

カウンセリングやセミナーを通じて学習モチベーションを保ち、毎月の学習状況をモニタリングすることで、必要に応じた声かけを行うため、オンライン英語学習を継続的に行うことができます。  
※学習カウンセリングは事前予約制です。

目的や課題を明確にすることで、  
無駄のない学習を実現できます。

毎週90分程度の学習を継続することができる  
仕組みがあるため、「学習習慣」が身に付きます。

お申し込みはWEBにて!

<https://www.benesse-glc.com/ost>



## 英語4技能教室型講座

### Concept

#### 将来、英語を武器に戦っていくための英語力を身につける。

帰国子女の人、幼少の頃から英語学習を始めた人、学校の授業が始まってはじめて 英語に触れた人…スタートは人それぞれ。海外大学への進学を目指す人、あくまで国内の大学を志向する人、検定試験のスコアのために頑張る人…ゴールも人それぞれ。しかし英語館にはそれら全てに最適解を示すことができるノウハウがあります。

### アップ教育企画英語館の特長

#### ①世界中の英語にじかに触れられる環境

英語館にはアメリカ・カナダ・イギリス・オーストラリア出身の英語母国語話者の講師はもとより、アジア出身の外国人講師、バイリンガルの日本人講師が常駐しています。特定地域の英語を絶対視することなく、世界中の様々な英語にじかに触れることができるという価値を追求しています。

#### ②終着点を意識したプロによるコンサル

英語館では国内外の大学受験に豊富な指導経験を持つプロのカウンセラーが、今何をすべきなのかと いうことを大学受験時点に至っておくべきレベルからの緻密な逆算に基づき指導する個人別コンサルを定期的を実施します。英語指導にとどまらず、課外活動の斡旋や、学校の成績管理等も実施します。

#### ③グローバルスキルを育む異年齢交流

英語館では自分とは異なる年齢層の人たちと一緒に授業を受け、議論を交わす環境に敢えて飛び込むことを推奨しています。異年齢交流は、単に刺激的であるということにとどまらず、リーダーシップやフォロアシップという感覚を身につけ、コミュニケーションの技術を向上させる上でも大変有効です。

アップ教育企画

# 英語館

Route Hがプロデュース  
教室型英語講座



英語4技能 少人数集団授業 ULFE [アルファイ] Junior / ULFE [アルファイ]

現代の諸問題を扱う最新の教材で  
英語力と世界情勢のリテラシーを向上

ULFE Junior は Basic, Standard, Advanced の3クラス設定です。中学生専用のコースですが、英語力が所定の水準に至っている場合には小学生にも飛び級で受講いただけます。ULFE はA1-A2, A2-B1, B1-B2, B2, B2-C1とCEFR基準に基づいた5クラス設定です。どのクラスも英語4技能のバランスよい習得と世界情勢への精通を目指すカリキュラムで運営します。

TOEFL 対策講座

RouteH グループの教材・カリキュラムと  
英語館の実力派講師が強力コラボ

TOEFL®のテストで高得点をとるためには、専用のトレーニングが不可欠です。これまで学んできたアカデミックな英語力を、テストでのスコアアップにしっかり結びつけていけるよう、ノートテイクの方法からタイムマネジメントまで、徹底して訓練します。

## 英語4技能教室型講座

当たり前に4技能を駆使し、考え、相手の言っている  
ことを感じ、ネイティブに通じるようになる。

海外大学の入学審査や国内グローバル系大学の選抜で必要な TOEFL iBT® Test での目標スコア獲得のために、Route H がプロデュースする4技能実践型の教室型レッスンを行っています。4技能「読む・聞く・話す・書く」を技能 × 技能の掛け合わせで運用することで、学習効果を生んでいくメソッドです。講師や他受講生とコミュニケーションをとりながら英語力を養成し、「当たり前」に4技能を駆使し、考え、相手の言っていることを感じ、ネイティブに通じる」ことを実感してください。

### Weekly Test

授業の冒頭 15 分程度で前回の授業内容の復習テスト「Weekly Test」を実施します。毎週の学習のマイルストーンになり、学習習慣が確立されます。

15  
minutes



## Benesse® お茶の水ゼミナール 海外大併願コース

Route Hがプロデュース

### 教室型英語講座 & 出願サービス

Hello, everyone!  
Did everyone have  
a good week?



Hello, Scott.  
I had a fun school  
festival this week.



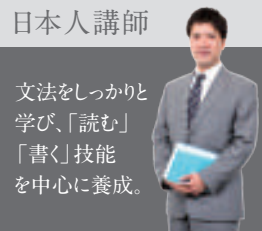
1 クラス最大 20 名の教室型少人数制レッスンが、英語力向上をベースメイクします。講師や他受講生と近況報告などを行うことでウォーミングアップ。

本番と同様の環境で、思考のスピードをテスト本番に近づけていきます。「わずか 15 秒で自分の意見をまとめて回答する」ことを目指します。

## 中学生は日本人講師が「型」作り

東大にとどまらない可能性の素地をつくる。  
中学生専用のハイブリッドメソッド。

ネイティブ講師だけではなく日本人講師による講義パートも加えた中学生向け「Junior Master Class」を開講しています。まだ英語に慣れていない中学生だからこそ、日本人が英語を学ぶために法則化した型（文法）をしっかりと習得し、英語が「わかる」ように。ネイティブ講師の元でアウトプットを行い「使える」ように。このハイブリッドなメソッドで、急速な英語力の伸長を実現します。高校進級後は、グローバル進路もしくは国内難関大という希望進路に合わせての英語受講が可能です。



+



中1～中3

### Junior Master Class

<例年受講生の在籍校>  
開成、桜蔭、筑波大付属駒場、  
渋谷教育学園渋谷、麻布など

中3～高3

### 海外大併願コースの上位クラス (レベル・目的別)

英語S東大クラス、英語Sクラス等  
(国内難関大対策)

## 「定着」と「実践」にこだわったカリキュラム設計

### アウトプットの機会を豊富にご用意

海外大併願コースでは毎週の復習テストや模試形式のテストなども用意しています。これらの「実践」を通じて授業内容の「定着」や実力の伸びを確認。さらに講師による All English 授業そのものがアウトプットの場となり、ディスカッションや英作文などの機会を通して「使える英語力」を身につけていきます。



### 前週の内容を定着させる「リポート式」

授業で理解したにも関わらず、次の授業までに忘れてしまうのは非常にもったいないこと。そのため海外大併願コースでは「リポート式」を導入し、授業の冒頭で前回の授業内容の復習テストである「Weekly Test」を実施します。この「Weekly Test」が毎週の学習のマイルストーンになり、学習習慣を確立。忘れる量を減らし、着実に知識を積み重ねていくことができます。

### 「Weekly Test」の内容とは？

「Weekly Test」は授業の冒頭15分程度で行う、前回の授業内容の確認テストです。授業では毎回特に強化するスキル（技能）が変わりますので、「Weekly Test」も前回の内容に応じて問われる技能が変わります。講師はこのテストを通じて、生徒の実力を把握し、適切な指導を行っています。

### 4技能を評価する 年2回の模試形式のテスト

海外大併願コースでは普段の授業成果を測る機会として、TOEFL iBT® Test 形式のテストを受験いただきます（追加受講料不要）。実際のテストに似た問題に制限時間がある中で取り組むことで、実力を確認すると同時に、不足している技能を発見することができます。テストの結果を今後の学習計画に生かしていきます。

### 「Progress Report」とは？

テストを受験するとテストの結果と講師からのコメントが入った「Progress Report」が届きます。自分の強みと弱みがわかり、目標に向けた学習アドバイスがもらえます。



## SAT Class

CEFR C2

目標	全米難関大・国内難関大入試に求められる英語力・思考力を養成する	120分 × 月3回 定員20名
対象	● 中学3年生～高校3年生 全米 Top School、上智大学・国際教養学部などの国内難関大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFL iBT® Test80点、英検1級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)	

### 講座内容

#### 全米Top Schoolで要求されるSAT®のハイスコアを目指す

全米Top Schoolへの出願では、SAT®で高得点を取らなくてはなりません。また、国内大でも上智大学国際教養学部等では、SAT®スコアも選考基準になります。SATクラスでは、特に日本人が苦手とするエッセイ対策にも力を入れており、受験対策を万全に行っていきます。

#### 全米Top School生に求められる高度な英語力、思考力を磨く

アメリカなどのTop School進学を目指す場合、高度な語彙力に加え、速読速解力、論理的思考力や、短時間で意見を書く力が必要となります。この講座では、SAT®のEvidence-based Reading and Writing、そしてEssay対策を提供。SAT®を熟知したネイティブ講師によるAll Englishの環境で、「速く読む」「短時間で書く」「Academicな語彙を使うこと」を訓練し、大学入学後も役立つアカデミックな英語力と思考力を鍛えていきます。

【注】2021年1月に、エッセイ(オプション)の廃止が発表されました(※日本では2021年6月まで実施)。

## Master Class

CEFR C1

目標	海外大・国内難関大入試に求められる英語力・知性を養成する	180分 × 月3回 定員20名
対象	● 中学3年生～高校3年生 海外難関大、早稲田大学・上智大学の国際教養学部などの国内難関大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFL iBT® Test80点、英検1級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)	

### 講座内容

#### 全米Top Schoolで要求されるTOEFL iBT® Test100点以上を目指す

世界の難関大に進学するためには、TOEFL iBT® Testで9割を超える高得点を取らなくてはなりません。さらに、東京大・京都市大・一橋大など国内最難関大でも推薦入試の条件として、TOEFL iBT® Test90点以上を課す大学が出てきました。Master Classでは、100点に到達するために、文章の構造を瞬時に理解し先読みする力、論理的にアウトプットする力、より洗練された単語・構文力を磨き、英語力を一段上のレベルに引き上げます。

#### 海外大生として求められるintellectualな英語を磨く

海外大への進学を目指す場合、単なる語学力だけでは通用しません。日本人が苦手とする、論理的思考や短時間で意見をまとめる力なども必要となります。この講座では、TOEFL iBT® Test対策をベースにしながら、All Englishの環境で、「速く読む」「正確に聞く」「論理的に話す」「独創的に書く」ことを訓練し、大学入学後も通用する能力を鍛えていきます。

## Intermediate Class

CEFR B2

目標	TOEFL® 対策を通じて、海外大進学に必要な「読む、聞く、話す、書く」の4技能を養成する	180分 × 月3回 定員20名
対象	● 中学3年生～高校3年生 海外大、国内難関大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFL iBT® Test60点、GTEC CBT 1150点、英検準1級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)	

### 講座内容

#### 海外大・国内大で有利になるTOEFL iBT® Test 80点を目指す

Intermediate Classは、TOEFL iBT® Testで80点をめざす方におすすめの講座です。80点を取得できると、海外州立大への入学が可能になる上、国内の検定試験を用いたグローバル入試に出願することが可能になります。英語力で言うと、難解な学術的な文章でも読み解き、内容把握ができる読解力と聴解力、そして自分の意見や考察を論理的構造を用いて発話したりエッセイが書ける能力があると言えます。このクラスでは、このレベルまで英語力を引き上げていきます。

#### 応用力を身につけ、英語を一段上のレベルへ

このようなTOEFL iBT® Test80点レベルの英語力を身につけるためには、より速く正確に内容を把握し、文章構造から読み解く訓練を重ねる必要があります。さらに、短時間で考えをまとめ、論理的にアウトプットする練習も必要です。講座の中でこれらのポイントに注力し、繰り返し練習していくことで、応用力を磨いていきます。

## Beginning Class

CEFR B1

目標	TOEFL® 対策を通じて、海外大進学に必要な「読む、聞く、話す、書く」の4技能を養成する	180分 × 月3回 定員20名
対象	● 中学3年生～高校3年生 海外大、国内大を目指す生徒対象。入会基準は、TOEFL iBT® Test40点、GTEC CBT1000点、英検2級レベルの語学力。(資格保持は必須ではありません。準ずる英語力があると判断されれば、受講可能です。)	

### 講座内容

#### 周りと差がつくTOEFL iBT® Test 60点をめざす

Beginning Classは、TOEFL iBT® Testで60点をめざす方におすすめの講座です。60点を取るためには、語彙や文法の基礎がしっかりしていることはもちろんですが、ある程度の速読力や200語以上のまとまった文章のSpeakingやWritingが求められるため、英語学習者にとって60点取得は一つの壁になっています。このクラスでは、All Englishの授業を通して、英語で考え、英語で表現することが自然と身につきます。

#### 基礎力を応用力へ引き上げる指導

TOEFL iBT® Test60点レベルの英語力を身につけるためには、文法や語法などの基礎をより堅固なものにしつつ、語彙数をさらに補強し、速読のスキルを磨き、論理的構造を用いたアウトプットの練習が欠かせません。授業では基本スキルの習得を大切にしつつ、基礎力を応用力へ引き上げるアクティビティを重ねていきます。



## 中1 Junior Master Class

日本人講師+ネイティブ講師

目標

国内・海外のあらゆる進路を実現する、  
最高峰の英語力を養成

180分×月3回

対象

●中学1年生  
将来、全米 Top School、東大をはじめとする国内最難関大を目指す中学1年生で、これから英語を本格的に学習する方を対象とします。「東大にとどまらない可能性の素地をつくりたい」グローバル世代・中1生のための講座です。  
※「中1 Junior Master Class」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

### 日本人講師(90分)とネイティブ講師(90分)による丁寧な指導

日本人講師が中学英語で求められる文法を解説し、国内最難関大の合格に必要な英語力はもちろん、将来、海外大学に進学した後のレポート作成やプレゼンテーションなどでも通用する正確な英語の基礎を身につけていきます。さらにネイティブ講師が演習を通じて、学んだ知識を実際に使えるように指導を行います。英語を楽しみながら「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく磨きます。

### 柔軟な中学生のうちに英語脳を養う

コミュニケーションを行うレベルで英語を使えるようになるためには、文法・単語を理解すること、そのアウトプットによって実践をしていくこととのバランスが重要です。この講座では、文法・単語を、問題を解くための知識としてだけでなく、Speakingなどのアウトプットを通じて使い切っていくことで、イメージを瞬間的に英語に変換する力を磨きながら、英語で理解し英語で表現する力を養います。

## 中2 Junior Master Class

日本人講師+ネイティブ講師

目標

国内・海外のあらゆる進路を実現する、  
最高峰の英語力を養成

180分×月3回

対象

●中学2年生  
将来、全米 Top School、東大をはじめとする国内最難関大を目指す中学2年生を対象とします。「東大にとどまらない可能性の素地をつくりたい」グローバル世代・中2生のための講座です。  
※「中2 Junior Master Class」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

### 4技能(読む・書く・聞く・話す)をバランスよく磨く

国内最難関大の入試を見据えた英語力はもちろん、将来、海外大学に進学した後のレポート作成やプレゼンテーションにも通用する英語の習得を目指し、日本人講師(90分)とネイティブ講師(90分)による丁寧な指導を行います。英語を楽しみながら「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく磨きます。

### 圧倒的な語彙力をつけ、Academic Englishに対応

英語の能力を総合的に上げるためには、「語彙力の増強」が必須事項となります。年間3000語に及ぶ単語を何度も目を通すことで、強靱な語彙力を養成します。また大学で教育を受けるための読解力と、コミュニケーション能力を高めるための「Academic English」を学ぶことで、自身の意見を明確に表現し、英文を正しく理解する能力を定着させます。

## 中3 Junior Master Class

日本人講師+ネイティブ講師

目標

国内・海外のあらゆる進路を実現する、  
最高峰の英語力を養成

180分×月3回

対象

●中学3年生  
将来、全米 Top School、東大をはじめとする国内最難関大を目指す中学3年生を対象とします。「東大にとどまらない可能性の素地をつくりたい」グローバル世代・中3生のための講座です。  
※「中3 Junior Master Class」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

### All-aroundな技術を身につける

このクラスの目的は将来医学部、東大にとどまらず、TOEFL受験をするにあたって、十分対応可能な英語力を養うことにあります。授業は日本人講師がReading, Writingを、ネイティブ講師がSpeaking, Listeningを教えます。単に使える英語にとどまらず、まとまった思想を理解し、発信する能力を養います。

### Academicな英語を身につける

日本人講師のパートではglobalization, paleontology, agriculture, psychologyなどのテーマを扱った500~700words程度の文章を熟読し、そこで使われている語彙、表現を徹底的に習熟させて、Outputできるところまで持っていきます。ネイティブ講師のパートではAcademicな場面で討論し、自分の意見を述べるができる力を養成します。くだけた英語ではなく、英米の教養人が使う英語表現を使いこなせるように訓練します。

## 中1・中2 Junior Master Class Global

日本人講師+ネイティブ講師

目標

現在の英語力を「アカデミック」な  
英語力へと昇華する

180分×月3回

対象

●中学1年生・2年生  
将来、海外大、国内大を目指す中学1・2年生で、帰国子女の方や英検準2級~2級程度を取得している方など、小学校低学年から英語に触れてきた方が対象です。アカデミックな英語力を4技能バランスよく養成したい方に最適な講座です。  
※「Junior Master Global」を受講するためには選抜テストに合格する必要があります。

講座内容

### 中1 Junior Master Class Global 授業内容

#### 基本文法から多読まで、「使える英語力」を伸ばす

英語に慣れた生徒でも、文法が弱かったり、教養を問う内容の議論については必ずしも得意ではありません。この講座では、日本人講師が英語の文法・語法などの基礎を再定着させ、ネイティブ講師が論理的構造を用いたアウトプットを指導していくことで、「使える英語力」を習得していきます。

### 中2 Junior Master Class Global 授業内容

#### 「アカデミック」な英語力を磨き、一段上のレベルへ

この講座では、大学で必要となるレベルの英語=「アカデミック英語」を磨くことに焦点を当てています。日本人講師による指導で語彙を増やしつづ、ネイティブ講師の授業で学術的な文章の速読力、内容把握力を磨き、アウトプットを積み重ねていきます。

## 海外・国内大学出願サービス



GLOBAL  
LEARNING  
CENTER

### 海外大進学 出願パック

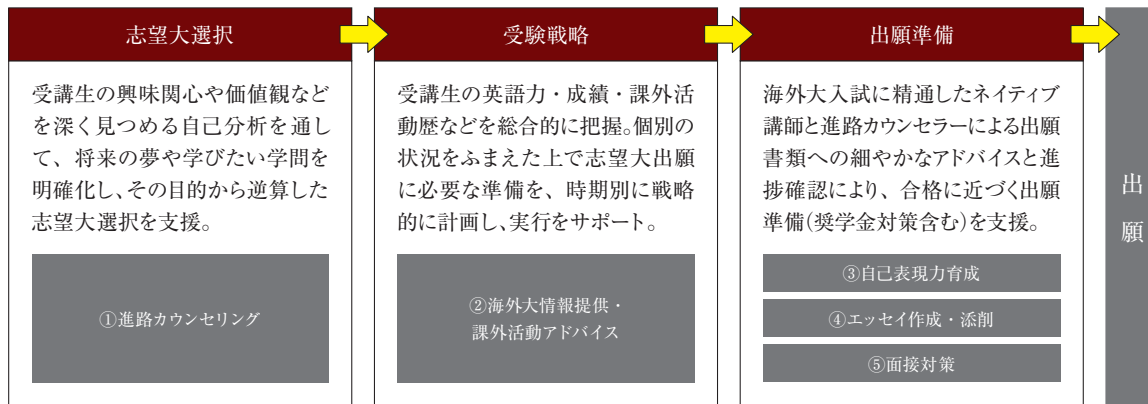
「海外大進学 出願パック」とは、希望の進路実現に向けて志望大選択から出願まで教室またはオンラインでトータルサポートする出願指導サービスです。

受講対象者

志望大：海外4年制難関大  
英語力：TOEFL iBT<sup>®</sup> Test 90点以上 ※1  
その他：教室またはオンラインで受講可能な方  
※定員あり（志望大、英語力、課外活動歴、成績等をふまえ受講可否を判断させていただきます）

※1 SAT<sup>®</sup> スコアが必要な大学を目指す場合は、SAT1400点以上が目安

#### サービス概要



#### 各プロセスですること

##### ① 進路カウンセリング

- 受講生の興味関心や希望に基づき、具体的な志望大選択を支援
- 志望大の絞り込みや、それに合わせた個別の受験戦略の立案
- 面接準備や推薦状の作成依頼について、個別アドバイス

##### ② 海外大情報提供・課外活動アドバイス

- 海外大進学についての基礎情報を提供
- 課外活動を含め、出願に向けた戦略的なスケジュール作成を指導

##### ③ 自己表現力育成

- 受講生の価値観や長所など、自己理解を深めるための自己分析力トレーニング
- 願書（Common Application や推薦状など）作成のための情報収集
- 出願書類全体で自己を最大限に表現するための戦略立案を支援

##### ④ エッセイ作成・添削

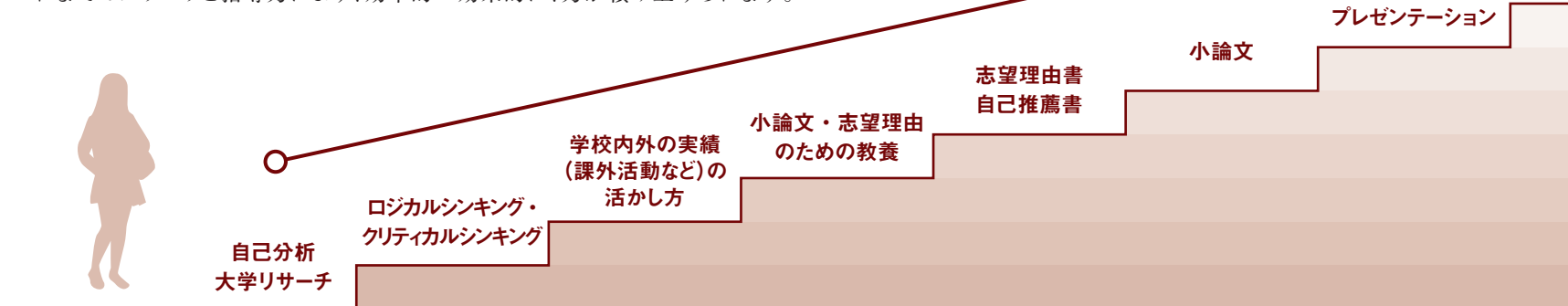
- Personal Essay や Supplement Essay などエッセイの作成ポイントを伝授
- 海外大出願エッセイに精通したネイティブ講師によるエッセイ添削

##### ⑤ 面接対策

- 各大学および奨学金の面接における想定問答作成および面接練習

## 国内大進学 総合型選抜対策プログラム（旧AO・推薦入試）

「国内総合型選抜対策プログラム」は、一般選抜とは異なる多面的・総合的評価の入試に対応したオンライン専門講座です。首都圏で大好評の指導を提供する“お茶の水ゼミナール”監修のもと、オンライン講座を開講。これまでのノウハウと指導力により、効率的・効果的に、力が積み上げられます。



海外大学と国内大学を併願する場合には、総合型選抜を利用する生徒が多数を占めます。理由は、一般選抜と比較して、志望理由書の作成や英語外部検定試験の積極活用など、海外大学の入試準備が活かせる点が大きいためです。高3春から準備をすれば、秋までには総合型選抜で国内大学から合格をもらい、その後は1月上旬に出願期限を迎える海外大学の出願準備に集中することが可能になります。

高3/4月～  
基礎対策講座

高3/7月～  
直前対策講座

二次試験対策講座

### 対象者

難関大学\*の総合型選抜（旧AO入試）もしくは推薦入試（公募推薦・自己推薦等）で合格を目指す高校3年生  
※慶應義塾、早稲田、上智、ICU、AIU、明治、立教、青山学院、法政など

### 内容

総合型選抜に必要な自己アピール力、多くの大学の総合型選抜でも大きなウエイトを占める小論文に必要な読解力・論理的構成力・表現力をつけ、志望校別対策前の基礎を固める。また、様々な題材・過去問を使った実践練習を繰り返します。

### 身につく 5つの力

論理的思考力	情報を整理し順序立てて考える力/筋道立てて物事を説明する力
読解力	文章を読み、その論点や主旨、筆者の主張を正確に読み取る力
要約力	文章を正確に読解した上で、その論旨を自分の言葉や理解を踏まえながら簡潔に表現する力
論述力	問題文や課題文の主旨を踏まえた上で、論理的で説得力のある自分の考えを表現する力
自己分析・自己アピール力	これまでの活動や、大学で学びたいこと、将来の夢などを具体的に述べながら、自分がいかに大学の理想とする学生像に近く、魅力的な人物かをアピールする力

質の高いサービスと日本唯一のハーバード・イエール大学11年連続合格実績により、全国の自治体、教育委員会、学校から信頼をいただいています。

## 都道府県など行政、自治体、教育委員会、学校への講座提供実績（2020年抜粋）※五十音順

### 茨城県 様

次世代グローバルリーダー育成

#### 目的

英語に関する高い意欲や能力を有する中高生を対象に、国際社会で活躍できる人財を育成する。

- オンライン英語講座（TOEFL®、SAT® 対策、英会話など）
- リーダーシップ講座
- 思考力講座
- ディスカッション、ディベート、模擬国連
- 海外トップ大生との交流会

### 熊本県 様

海外大学進学支援

#### 目的

海外進学を志望する中高生を学校の垣根を越えて集い、英語力やエッセイ作成などの海外進学に必要な能力向上を図る場や海外進学に関する情報提供等の支援を行い、海外進学を促進する。

- 学校、オンラインでの英語講座（TOEFL®、SAT® 対策など）
- 思考力講座
- エッセイ対策講座
- 教員研修
- 海外トップ大生との交流会

### 東京都 様

海外大学進学支援

#### 目的

海外進学を目指す国際バカロレア生、保護者、教員に進学指導に特化した情報及び支援を提供し、進路希望を実現する。

- 学校での英語講座（TOEFL®、IELTS™、SAT® 対策など）
- 世界のトップ大学情報提供
- エッセイ対策講座
- 教員研修
- 保護者会
- 海外トップ大生との交流会

### 横浜市 様

海外大学進学支援

#### 目的

高校生を対象に海外進学に必要な英語力の向上、エッセイやディスカッションの手法の習得を図るほか、異なる文化や価値観を尊重し、日本や横浜の文化や歴史等について海外に発信する力を養成する。

- 学校、オンラインでの英語講座（TOEFL®、SAT® 対策など）
- 思考力講座
- エッセイ対策講座
- 教員研修
- 海外トップ大生との交流会

## 「Route H グループ」の主なイベント

Route H グループでは、年間を通して全国各地、またはオンラインでイベントを主催、共催、協賛しています。課外活動として、情報収集として、同じ志を持つ仲間を見つける場としてご活用いただいています。

海外トップ大の最新情報や出願ポイントについて知りたい方向け

### 海外トップ大進学ガイダンス「Route H Info Session」

Route H 責任者が海外トップ大の最新の入試状況や出願のポイントを説明するとともに、海外トップ大に通う Route H 卒業生が現地の授業や生活の様子、受験体験談などを語ります。

海外トップ大の授業や生活の様子や受験体験を知りたい方向け

### ハーバード大生と高校生の交流会 ※英国トップ大生との交流会等もあり。

ハーバード大生(日本人以外の方がほとんど)が、大学の長所・生活などを語り、高校生とのグループセッションも行います。  
※大学院(公共政策、デザイン)生の Japan Trek や、学部生組織(HCAP, HKIC, HMC 等)と交流会を開催しています。

世界のトップ大合格に向けた受験の心構えについて知りたい方向け

### 日米トップ大・オンラインサマースクール

海外トップ大・東大合格者による、受験体験談・留学体験談や、受験戦略に関するワークショップ、ガイダンスなど豊富なプログラムを提供します。 2020年開催実績 8月2回

日本全国、世界各国の中高生との学術大会に参加してみたい方向け

### World Scholar's Cup

3人一組でチームを組み、総合的な教養を競う大会で、世界50か国で2万人以上の中高生が参加する世界最大規模の大会です。



## お申込みの流れ／無料体験授業受講

### オンライン英語講座 Global Learning Centerの 体験はこちら

STEP  
1

無料体験授業にお申し込みください。  
公式サイトもしくはお電話から「無料体験授業」を  
お申し込みください。

Global Learning Center

**0120-385-149**

受付時間 10:00~20:00年末年始除く  
www.benesse-glc.com

STEP  
2

受講に必要な資料が届きます。  
無料体験授業の詳細をメールまたは  
電話にてご案内いたします。

STEP  
3

接続の確認とオンライン操作の  
ガイダンスを実施無料体験授業を受講

※STEP2は同日に行います。  
※コースによって別日になる場合がございます。

STEP  
4

入会申し込み／受講スタート

**Global Learning Center受講の注意点**  
快適にご受講いただくため、ご受講される受講生には、  
以下の環境を整えていただくことをお願いしています。

■光インターネット推奨

※ケーブルTV回線、ADSL、ポケットWi-fiの方は、  
一部受講ができない場合がございます。

■パソコンOSが受講に最適なバージョン

(Windows : Windows7以上、Mac:OS X (10.4以上)

■Google Chrome、Mozilla Firefox、Internet Explorerの  
いずれかのウェブブラウザを利用

### 教室型英語講座（首都圏） お茶の水ゼミナール 海外大併願コースの体験はこちら

STEP  
1

無料体験授業にお申し込みください。  
公式サイトもしくはお電話から「無料体験授業」を  
お申し込みください。

お茶の水ゼミナール

**0120-404-424**

受付時間 月～土 13:00～20:00  
日 13:00～19:00  
www.ochazemi.co.jp/kaigai

STEP  
2

無料体験授業を受講

STEP  
3

入会申し込み／受講スタート

### 英語講座を無料体験してみよう！

一人ひとりの学習者の皆様に納得したクラスを受講して  
いただけるよう無料体験授業をご用意しております。  
無料体験授業では、TOEFL<sup>®</sup>やSAT<sup>®</sup>対策講座の授業  
の雰囲気や体験、現状の英語レベルの確認を行います。  
進学アドバイザーが受講プランを案内します。

無料体験授業の  
お申し込みは今すぐ！

### 教室型英語講座（関西） アップ教育企画英語館の体験はこちら

STEP  
1

無料体験授業にお申し込みください。  
公式サイトもしくはお電話から「無料体験授業」を  
お申し込みください。

アップ教育企画英語館

**0798-65-3340**

受付時間 月～土（水曜日休館）13:00～19:30  
日 13:00～18:00  
https://up-eigokan.com/

STEP  
2

無料体験授業を受講

STEP  
3

入会申し込み／受講スタート

### 英語講座を無料体験してみよう！

一人ひとりの学習者の皆様に納得したクラスを受講して  
いただけるよう無料体験授業をご用意しております。無料体験授業  
では、ULFE [アルフィ] Junior / ULFE [アルフィ]、TOEFL<sup>®</sup>対  
策講座の授業の雰囲気や体験、現状の英語レベルの確認を  
行います。進学アドバイザーが受講プランを案内します。

無料体験授業の  
お申し込みは今すぐ！

## 受講費のご案内

※ご案内の受講費には消費税を含みます。

### Global Learning Center 英語講座受講費 月謝

●入会金	33,000円
●SAT / TOEFL iBT® Test 対策 Class	30,800円
●Academic Basics Level Ⅲ、Ⅱ	19,800円
●Academic Basics Level I	13,200円

※解約を希望される場合は、指定期日（毎月20日）までにお手続きいただければ翌期からの退会・休会が可能です。

### Global Learning Center マンツーマン英語講座

●ネイティブ講師マンツーマン指導 12回	69,300円
●オンラインスピーキングトレーニング	月謝 13,200円

### Global Learning Center 出願サービス受講費

●国内大学 総合型選抜対策プログラム 基礎対策講座（4月～7月）	月謝 36,300円
●国内大学 総合型選抜対策プログラム 直前対策講座（7月～10月）	お問い合わせください。

※直前対策講座は志望大学別にご用意しております。

### お茶の水ゼミナール 受講費 月謝

●入会金	33,000円（高校生） 22,000円（中学生）
●SAT / TOEFL iBT® Test 対策 Class	33,000円
●Junior Master Class	26,505円

※掲載している授業料は、平常授業、システム費、Weekly Testを含んだ費用総額です。別途教材費がかかります。

※入学金は、兄弟姉妹が在籍している場合は半額免除いたします。

※受講費は、毎月特定日に講座自動引き落としによりご納入いただきます。

※口座引き落としを希望されない方は入会申込書をご確認ください。詳しくは入会願書ご提出後にお送りする入会申込書をご確認ください。

※解約を希望される場合は、指定期日までにお手続きいただければ翌期からの解約・退会が可能です。

### アップ教育企画英語館 受講料 月謝

●入会金	33,000円（高校生） 22,000円（中学生）
●ULFE [アルフィ] Junior / ULFE [アルフィ]	22,000円 ※B2-C1クラスのみ27,500円
●TOEFL iBT Test 対策 Class	33,000円

※休学、退学などの各種手続きを行う場合は、該当月の前月20日までに所定の書類を校舎までご提出ください。

※学費等は原則として銀行口座振替により納入していただきます。入学時にお渡しする口座振替依頼書(金融機関によって書式が異なります)を専用封筒に入れてご郵送ください。口座振替登録完了までには約2ヵ月を要します。登録完了までの間は毎月月末に郵送いたします「学費等お振込のご案内」に基づきお振込ください

※原則的に、教材費については月学費には含まれておりません。別途、規定料金を徴収致します。

問い合わせ

Route H

0120-584-880

受付時間 13:00～20:00年末年始除く  
http://rt-h.jp/ E-mail: routeh@rt-h.jp

Route H

検索

Global Learning Center

0120-385-149

受付時間 10:00～20:00年末年始除く  
www.benesse-glc.com

ベネッセ GLC

検索

お茶の水ゼミナール

0120-404-424

受付時間 月～土 13:00～20:00 日13:00～19:00  
www.ochazemi.co.jp/kaigai

お茶ゼミ海外大併願

検索

アップ教育企画英語館

0798-65-3340

受付時間 月～土（水曜日休館）13:00～19:30 日13:00～18:00  
https://up-eigokan.com/

アップ英語館

検索

## 「Route H」グループ合格実績（2010—2020）抜粋 ※最新情報はRoute Hのサイトでご確認下さい。

**Harvard 25名**（11年連続）

**Yale 31名**（11年連続）

**Princeton 21名**（8年連続）

**Stanford 9名**

**MIT 6名**

**Oxford 3名**

※「Route H」「Global Learning Center」「お茶の水ゼミナール 海外大併願コース」受講生の合格実績です。当社が担った行政事業での実績を含みます。

※他社において「大学院」合格を実績として掲載する場合がありますが、当社の実績は「学部」合格となります（大学院は含まれません）。

※SAT模試受験のみの利用者は除いています。

### アメリカ（総合大）

Columbia, Brown, UPENN, Cornell, Dartmouth, U Chicago, Northwestern University, Duke University, UCLA, UC Berkeley, UCSD, Georgetown University, U Michigan, Georgia Tech, NYU, Tufts ほか

### アメリカ（リベラルアーツ・カレッジ）

Williams, Amherst, Swarthmore, Wellesley, Pomona, Bowdoin, Carleton, Middlebury, Haverford, Grinnell, Wesleyan, Mount Holyoke, Minerva ほか

### イギリス

ICL, UCL, KCL, U Edinburgh, U Manchester

### オーストラリア

U Melbourne, U Queensland, U Sydney, The Australian National University

### カナダ

U Toronto, U British Columbia, McGill University, York University

### シンガポール

Yale NUS, NUS, Nanyang Technological University

### その他

NYU Abu Dhabi, Peking University（北京大）, U Hong Kong, Seoul National University, Hong Kong Science and Technology

### 日本

東京大、京都大、大阪大、東北大、九州大、早稲田大、慶應大、上智大、国際教養大

### 奨学金

柳井正財団海外奨学金、江副記念財団奨学金（学術部門）、孫正義育英財団奨学金、グリーバンクロフト基金奨学金、JASSO海外留学支援制度（学部学位取得型）、船井奨学金

TOEFL® and TOEFL®iBT are registered trademarks of Education Testing Service(ETS). This brochure is not endorsed or approved by ETS.

SAT® is a trademarks of the College Entrance Examination Board, which does not endorse this publication.



Benesse お茶の水ゼミナール  
海外大併願コース

